

Ⅲ 教学組織

1 看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数

(2013.4現在)

学 年	収容定員	現 員 数	休学者数 (内数)	留年者数 (内数)
1 年	75	80	0	0
2 年	80	95	0	1
3 年	80	92	1	3
4 年	80	106	1	4
計	315	373 (118.4%)	2 (0.5%)	8 (2.1%)

【入学者】

学 部

《 》…男子内数

	学部一般	推薦/・帰国生入学			学士編入学	科目等履修生
募集要項配布期間	2013年8月～ 2014年1月	2013年7月～11月			2013年7月～9月	2014年2月～ 2014年3月
願書受付期間	2014年1月6日～ 1月22日	2013年10月18日～ 10月25日			2013年8月30 9月6日	2014年2月24日～ 3月5日
募 集 員	60 (指定校推薦 10名以内を含む)	【推薦】 15	【帰国生】 若干名	【帰国生】 10名以内	20	各科目若干名
志願者数(倍率)	452 (7.5倍) 《28》	43 (2.9倍) 《2》	3 《0》	0 《0》	49 (2.5倍) 《6》	2
受 験 者 数	444 (7.4倍) 《26》	43 (2.9倍) 《2》	3 《0》	0 《0》	45 (2.3倍) 《6》	2
合 格 者 数	1次試験 179 《5》	16 《1》	0 《0》	0 《0》	20 《2》	2
	2次試験 91 《1》					
補 欠 者 数	48				3 《0》	
入 学 者 数	64 《2》	16 《1》	0 《0》	0 《0》	19 《2》	

【卒業生】

	学部一般	編入生
卒業生数	82	21
入学時人数	85	20
上級から加わる	2	1
下級へ下がる	4	0
退学	1	0

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

		卒業所要 単位数	平均取得 単位数	最高取得 単位数	最低取得 単位数
教養科目	教養科目	16	26	42	18
	外国語科目	10	10	12	10
	小計	28	36	54	28
基礎科目		32	32	32	32
専門科目		69	73	78	69
総計		129	141	177	130

【国家試験結果】

国家試験結果

	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
保健師	99	94	94.9
看護師	101	100	99.0

【学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数(1名)

	授業科目	単位数	履修者数	単位修得者数	単位未履修者数
前期	生命倫理	1			
	看護技術論	1			
	老年看護学（基礎）	1			
	急性期看護論Ⅲ	1	1	0	1
	学校保健	2			
	養護概説	2			
	看護研究Ⅰ	2			
	看護ゼミナール（緩和ケア）	1			
	看護ゼミナール（がん看護）	1			
	看護ゼミナール（遺伝看護）	1			
	看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ）	1			
後期	倫理学	2			
	教育方法の研究	2			
	教育制度論	2			
	カウンセリング概論	2			
	生涯発達論（成人・老年）	2			
	老年看護学（急性期実践方法）	1	1	0	1
	看護政策論	2			
	看護研究Ⅱ	3			
計			2	0	2

【実習施設】

2013 年度実習施設一覧表

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
1	コミュニケーション実習	1	聖路加国際病院	36	老年看護学実習	3	すえながデイサービス
2	基礎看護技術実習	1	聖路加国際病院	37	老年看護学実習	3	柿生アルナ園デイサービス
3	看護展開論実習	1	聖路加国際病院	38	老年看護学実習	3	みずべの苑デイサービス
4	小児看護学実習	2	聖路加国際病院	39	老年看護学実習	3	高齢者総合福祉施設 晴海苑
5	小児看護学実習	2	済生会横浜市東部病院	40	老年看護学実習	3	なぎさと楽苑デイサービス
6	小児看護学実習	2	神奈川県立 こども医療センター	41	老年看護学実習	3	マイライブ徳丸デイサービス
7	小児看護学実習	2	桜川保育園	42	老年看護学実習	3	南陽園在宅サービスセンター
8	小児看護学実習	2	明石町保育園	43	老年看護学実習	3	第二南陽園 在宅サービスセンター
9	小児看護学実習	2	築地保育園	44	老年看護学実習	3	第二南陽園 在宅サービスセンター
10	小児看護学実習	2	八丁堀保育園	45	老年看護学実習	3	よつば苑通所サービス
11	小児看護学実習	2	十思保育園	46	老年看護学実習	3	三ノ輪通所サービス
12	小児看護学実習	2	堀留町保育園	47	老年看護学実習	3	デイサービスセンター あいおい
13	小児看護学実習	2	人形町保育園	48	老年看護学実習	3	ケアホーム西大井 こうほうえん
14	小児看護学実習	2	日本橋保育園	49	老年看護学実習	3	西大井いきいきセンター
15	小児看護学実習	2	浜町保育園	50	老年看護学実習	3	ユトリアムデイサービス
16	小児看護学実習	2	つくだ保育園	51	老年看護学実習	3	グループホーム人形町
17	小児看護学実習	2	月島保育園	52	老年看護学実習	3	グループホームひまわり
18	小児看護学実習	2	かちどき西保育園	53	老年看護学実習	3	日本橋高齢者在宅 サービスセンター
19	小児看護学実習	2	勝どき保育園	54	老年看護学実習	3	デイサービスセンター なごやか築地
20	小児看護学実習	2	晴海保育園	55	精神看護学実習	2	東京武蔵野病院
21	周産期看護学実習	2	聖路加国際病院	56	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき桜川
22	周産期看護学実習	2	東府中病院	57	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき浜町
23	成人看護学実習(急性期)	2	聖路加国際病院	58	地域・在宅看護学実習	2	中央区いきいき勝どき
24	成人看護学実習(慢性期)	2	聖路加国際病院	59	地域・在宅看護学実習	2	中央区築地児童館
25	成人看護学実習(慢性期)	2	国立がん研究センター	60	地域・在宅看護学実習	2	中央区新川児童館
26	老年看護学実習	3	永生会永生病院	61	地域・在宅看護学実習	2	中央区堀留町児童館
27	老年看護学実習	3	救世軍ブース記念病院	62	地域・在宅看護学実習	2	中央区浜町児童館
28	老年看護学実習	3	ブース記念老人保健施設 グレイス	63	地域・在宅看護学実習	2	中央区佃児童館
29	老年看護学実習	3	介護老人保健施設 リハポート明石	64	地域・在宅看護学実習	2	中央区月島児童館
30	老年看護学実習	3	永生会老人保健施設 イマジン	65	地域・在宅看護学実習	2	中央区勝どき児童館
31	老年看護学実習	3	中央区立高齢者在宅サ ビスセンターマイホーム新川	66	地域・在宅看護学実習	2	中央区晴海児童館
32	老年看護学実習	3	中央区立高齢者在宅サ ビスセンターマイホームはるみ	67	地域・在宅看護学実習	2	白十字訪問看護 ステーション
33	老年看護学実習	3	小茂根の郷 在宅サービスセンター	68	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション けせら
34	老年看護学実習	3	練馬高松園デイサービス	69	地域・在宅看護学実習	2	練馬区医師会立 訪問看護ステーション
35	老年看護学実習	3	みやうちデイサービス	70	地域・在宅看護学実習	2	おもて参道 訪問看護ステーション

	授業科目	単位数	施設名		授業科目	単位数	施設名
71	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション みけ	106	総合実習	2	ひやしんす城北地域 活動支援センターⅢ型
72	地域・在宅看護学実習	2	板橋ロイヤル 訪問看護ステーション	107	総合実習	3	東芝ヒューマンアセットサ ービス株保健支援事業部
73	地域・在宅看護学実習	2	浅草医師会立訪問看護 ステーション	108	総合実習	2	N T T 東日本首都圏 健康管理センター
74	地域・在宅看護学実習	2	城北訪問看護 ステーション	109	総合実習	2	小児保健福祉センター
75	地域・在宅看護学実習	2	自由が丘 訪問看護ステーション	110	総合実習	2	中央区医師会立訪問看護 ステーションあかし
76	地域・在宅看護学実習	2	医師会立品川区 訪問看護ステーション	111	総合実習	2	永生会永生病院
77	地域・在宅看護学実習	2	東電さわやか訪問看護 ステーション中野	112	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	青山学院中等部
78	地域・在宅看護学実習	2	医師会立中央区 訪問看護ステーション	113	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	専修大学松戸高等学校
79	地域・在宅看護学実習	2	岩本町訪問看護 ステーション	114	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属 竹早小学校
80	地域・在宅看護学実習	2	桜台訪問看護 ステーション	115	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	千葉県立柏高等学校
81	地域・在宅看護学実習	2	あすか山訪問看護 ステーション	116	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	蕨崎市立甘利小学校
82	地域・在宅看護学実習	2	河北訪問看護・リハビリテ ーション阿佐ヶ谷	117	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	筑波大学附属小学校
83	地域・在宅看護学実習	2	すみだ医師会・すみだ訪問 看護ステーション	118	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属 世田谷小学校
84	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション けやき	119	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	鴻巣市立下忍小学校
85	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション 芦花	120	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山形県立山県西高等学校
86	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション 北沢	121	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	山脇学園中学校・高等学校
87	地域・在宅看護学実習	2	訪問看護ステーション さぎそう	122	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	品川区立立三木小学校
88	地域・在宅看護学実習	2	すみれ訪問看護 ステーション	123	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	目黒区立第七中学校
89	地域・在宅看護学実習	2	大島訪問看護 ステーション	124	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	文教大学附属中学・高等 学校
90	地域・在宅看護学実習	2	新みさと訪問看護 ステーション	125	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	板橋区立中根橋小学校
91	地域・在宅看護学実習	2	セコムとしま 訪問看護ステーション	126	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	白井市立白井第二小学校
92	地域・在宅看護学実習	2	セコム吉祥寺 訪問看護ステーション	127	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	国際基督教大学高等学校
93	地域・在宅看護学実習	2	セコム世田谷 訪問看護ステーション	128	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京学芸大学附属高等学校
94	地域・在宅看護学実習	2	セコム市川 訪問看護ステーション	129	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東京都立戸山高等学校
95	地域・在宅看護学実習	2	滝野川病院訪問看護 ステーション	130	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	玉川聖学院
96	総合実習	2	聖路加国際病院	131	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	中央区泰明小学校
97	総合実習	2	訪問看護ステーション パリアン	132	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	松戸市立高木小学校
98	総合実習	2	齋藤助産院	133	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	江東区東雲小学校
99	総合実習	2	助産婦石村	134	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	東洋女子高等学校
100	総合実習	2	豊倉助産院	135	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	成蹊中学高等学校
101	総合実習	2	東邦大学医療センター 大森病院	136	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	大垣市立興文中学校
102	総合実習	2	東京武蔵野病院	137	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	松江北高等学校
103	総合実習	2	多摩たんぼぼ 訪問看護ステーション	138	養護実習Ⅰ・Ⅱ	5	広尾学園中学校・高等学校
104	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむれ				
105	総合実習	2	多摩たんぼぼ訪問看護 ステーションむさしの				

Class of 2014 (2014年3月卒業) 総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

学籍番号	氏名	領域	指導教員	タイトル
10B001	相沢絵里奈	母性・助産学	五十嵐ゆかり	緊急帝王切開を体験した女性へのパースレビューの現状
10B002	浅海りり子	教養	鶴若 麻理	「よい看護師」に求められる特質に関する研究 ー看護師の視点からー
10B003	浅野 祥子	成人(急性期)	宇都宮明美	ICUで死を迎えた患者の家族に対するグリーフケアの実際
10B004	安部 克憲	基礎	大久保暢子	遷延性意識障害患者と看護師の相互作用とそれによる看護ケアへの影響
10B005	新井さよ子	国際	長松 康子	途上国で活動を行う日本人助産師ワーカーが直面する困難とその対処
10B006	新井 柚子	地域	大森 純子	住民の暮らしを守る一次医療圏の役割 ー北海道の地域でのフィールドワークを通してー
10B007	伊澤 真穂	基礎	伊東美奈子	新卒看護師の職業継続を支える要因 ～入職7か月目の看護師へのインタビュー調査から～
10B008	今井 莉絵	母性・助産学	飯田真理子	緊急帝王切開術前から術後にかけて母親が医療者に求めるケアについての文献検討
10B009	色川ゆかり	教養	菊田 文夫	親子キャンプのプログラムや、家族を超えた共同生活が親の子どもをみる視点の変化や子どもに対する気持ちの変化が与える家族に対する影響
10B010	上原 侑莉	教養	菊田 文夫	自然体験活動におけるスタッフ間のコミュニケーションに関する考察 ー聖路加親子キャンプの事例を通してー
10B011	内山貴美子	基礎	大久保暢子	失語症患者に対する看護師のコミュニケーション技術の検討
10B012	大塚 早記	地域	小野若菜子	神経難病患者の家族が長期在宅介護を継続している要因
10B013	近江 麻耶	教育	三浦友理子	看護学実習において看護学生が楽しさを感じた状況の質的分析
10B014	岡本野乃香	成人(急性期)	櫻井 文乃	救命救急領域で働く看護師が抱く家族成員の突然死に直面した患者家族へのケア実施に対する意識
10B015	荻原 沙奈	母性・助産学	森 明子	女子大生に対する妊娠前教育の実践と評価
10B016	鎌田 舞子	母性・助産学	五十嵐ゆかり	周産期搬送システムの現状と課題 ー助産師が担う搬送コーディネーターに焦点をあててー
10B017	白木 美穂	教養・情報	中山 和弘	Q & Aサイトの投稿から見た不妊者の不妊治療のステージによる悩みの変遷
10B018	加舎美智瑠	精神	木戸 芳史	成人期の自閉症スペクトラム障害を持つ人の抱える課題と介入
10B019	川上 玲子	国際	長松 康子	フィリピンの首都マニラにおける中産層の人々の死生観
10B020	川口 彩香	基礎	大久保暢子	脳神経病棟における身体抑制の現状とそれに替わる看護技術の検討
10B021	岸本 璃子	学校保健	三森 寧子	高等学校における発達障害をもつ生徒への養護教諭のかかわりの現状と課題
10B022	木村 有里	教育	松谷美和子	特定保健指導における減量成功者の契機と困難：アセスメント・指導方法に焦点化して
10B023	清野 薫	精神	大橋 明子	国内における乳がん患者の精神的苦痛の介入の実際とその効果 ー看護職の介入の拡大に焦点を当ててー
10B024	金 郁慧	母性・助産学	片岡弥恵子	NICU・GCUにおける多職種連携と看護職の役割
10B025	小林 真衣	小児	小野 智美	外来で採血を受ける幼児後期～学童前期の子どもの達成感・満足感を高める看護援助についての考察 ～処置前の紙芝居、処置後のあそびを通して～
10B026	駒井 瑞穂	成人(急性期)	池口 佳子	グリーフケアに関する文献検討 ー現状と家族にもたらす効果についてー
10B028	櫻庭 友里	成人(慢性期)	飯岡由紀子	在宅療養を希望する終末期患者とその家族への退院調整を担う施設側看護師のケアと役割についての文献的考察
10B029	佐藤 秀美	精神	角田 秋	精神疾患を抱える思春期・青年期患者に対するアプローチ ～うつ病、希死念慮を抱える患者に焦点を当てて～
10B030	佐藤 博美	小児	眞鍋裕紀子	幼児期後期から学童期前期の小児がんの子どもに対する病状説明の現状と課題について
10B031	佐藤 舞	成人(慢性期)	飯岡由紀子	乳がん術後患者のリンパ浮腫発生後の効果的なセルフケア支援
10B032	佐藤 明衣	国際	長松 康子	開発途上国における日本人ワーカーの現地スタッフとの信頼関係構築に関する研究
10B033	澤田 彩乃	学校保健	岩辺 京子	知的障害のある子どもへの“性に関する指導”の展望 ー教諭や保護者へのインタビューを踏まえてー

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
10B034	設樂 理砂	成人 (急性期)	宇都宮明美	多職種が活動する災害時における看護師の役割 —東日本大震災でのDMAT看護師の活動の現状と課題
10B035	菅原 才加	精神	木戸 芳史	新卒看護師における初年度のメンタルヘルス等の推移に関する文献検討
10B036	相馬 幸代	母性・ 助産学	川元 美里 森 明子	産業看護職が就労女性に行っているリプロダクティブ・ヘルスの支援の現状
10B037	高橋 昇平	教養・ 情報	中山 和弘	Q & A サイトへの投稿から見た発達障害者とその家族の小学生からの学校生活上での困難
10B038	高橋 知里	地域	小林 真朝	保健師にとっての事業化とは
10B039	高橋やよい	管理	吉田 千文	一般病棟看護師のがん患者の看取り後の思いとその後の心理的変化に関する研究
10B040	田口 智子	学校 保健	岩辺 京子	思春期やせ症の児童・生徒への養護教諭の支援の在り方
10B041	竹田 千慧子	教養・ 情報	中山 和弘	成人女性を対象とした HPV ワクチン接種に関する意思決定支援ツールの作成と 評価
10B042	立川 桃子	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	終末期患者・家族への病状説明に対し一般病棟の看護師が抱く困難感と看護の 検討
10B043	田中 千紘	管理	吉田 千文	看護における接遇と東京ディズニーリゾートにおけるホスピタリティの看護への 適用可能性
10B044	玉谷 知佳	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	抗がん剤の副作用により手足症候群を発症したがん患者に対する外来看護：実 情と課題
10B045	田村 芽唯	地域	大森 純子	離島に夫婦で暮らし続けることへの思い ～佐渡島の山奥で生活する後期高齢者夫婦 において、認知症の夫を介護しながら生活する妻へのインタビューより～
10B047	傅田あすか	学校 保健	岩辺 京子	日本と諸外国の性教育の実態と今後の課題 —高校一年生へのアンケート調査を通じて—
10B048	土井 愛弓	教養	菊田 文夫	宿泊型自然体験活動が参加者である親に与える効果についての研究 —聖路加看護大学が主催する親子キャンプを通して—
10B049	徳道 亜紀	小児	平林 優子	痛みを伴う検査、処置を受ける子どもへのプレパレーションのあり方の考察 —看護師の関わりの観察、インタビュー、実践の分析を通して—
10B050	永野 花香	老年	千吉良綾子	特別養護老人ホームでの看取り教育に関する文献検討 —教育ニーズ・課題、教育プログラムの視点から—
10B052	名取 茜	精神	大橋 明子	精神疾患を抱える患者の暴力や攻撃性に対する精神科看護師のかかわり方の現状
10B053	野澤 幸恵	基礎	菱沼 典子 加藤木真史	経管栄養を受けている患者への看護ケアの実際 —人間にとっての食事の視点から—
10B054	萩原 由奈	成人 (急性期)	宇都宮明美	ICUに緊急搬送された患者家族の情報に関するニーズに対する具体的介入方法 の検討
10B055	平岡沙梨衣	母性・ 助産学	五十嵐ゆかり	NICUにおける父親へのケアの現状
10B056	平澤 洋美	地域	麻原きよみ	耐糖能異常を有しながら中小企業で働く人々に保健師が行う効果的な支援と役 割につて —インタビューからの考察—
10B057	平原 綾乃	成人 (慢性期)	高田 幸江	ターミナル期にある、トータルペインを抱える患者に対するケアの検討
10B058	深堀 書加	精神	大橋 明子	精神障がい者の異性との付き合い方に関する悩みとその援助について
10B060	藤田 ゆり	母性・ 助産学	飯田真理子	看護職が妊娠期や産褥期にある女性に対して行う効果的な教育・指導のありか たに関する文献検討
10B061	舟塚 愛美	学校 保健	三森 寧子	事例からみた思春期の発達障害児に対する支援について
10B062	古内 早紀	小児	平林 優子	乳幼児期の小児がん患児の両親が抱く不安と看護支援の検討 ～小児病棟での実習を通して～
10B063	別府 紫	教育	三浦友理子	高校生に対する知識の伝達にとどまらない性教育に関する授業の現状
10B064	穂積 咲希	教養	鶴若 麻理	看護大学生の臨床実習時におけるソーシャルネットワーキングサービス利用の 状況と今後の課題
10B065	堀 真紀子	国際	長松 康子	帰国子女の海外生活及び帰国後の生活に体験する困難とその支援策
10B066	本間 美葉	母性・ 遺伝	有森 直子	ダウン症候群児と家族のための発達・支援ガイドマップの作成

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
10B067	牧 理絵	学校 保健	三森 寧子	小学校高学年の子どもの睡眠に関する実態から考える養護教諭としての支援の 在り方～小学5年生へのアンケート調査と学級担任・養護教諭へのインタビュー を通して
10B068	真下 結	教養	鶴若 麻理	終末期における治療差し控えおよび中止に関する家族の代理意思決定で生じる 葛藤
10B069	松谷 遥	老年	亀井 智子	転倒骨折予防実践講座参加者における講座参加後の転倒予防行動への取り組み ー講座に参加する都市部在住高齢者を対象とした短期的評価ー
10B071	丸山 紗希	管理	吉田 千文	東日本大震災時の避難所における、被災者の「食」の実態と課題
10B072	三浦 敬美	地域	小林 真朝	生活習慣病改善にむけた健康関連アプリケーションにおける医療専門職による 健康支援
10B073	三上 文香	母性・ 助産学	川元 美里 蛭田 明子	生まれてすぐに子どもを亡くした両親が社会の中で体験する辛さとその対処
10B074	水沼たまみ	成人 (急性期)	櫻井 文乃	術前患者の自信を引き出す日常的な看護援助における現状と課題
10B075	三橋 りさ	基礎	大橋久美子	看護場面におけるタッチングに関する学生の認識と実践の調査
10B076	宮田 理絵	成人 (急性期)	櫻井 文乃	ICUに緊急入院した患者家族への看護援助における看護師の認識
10B077	八重畑春香	母性・ 助産学	小黒 道子	口唇口蓋裂児の出生における、産科入院中の両親への効果的な早期看護支援の 検討
10B078	安田 理恵	成人 (急性期)	池口 佳子	術後訪問を通して手術室看護師が経験したこと
10B079	安本 悠	基礎	佐居 由美	術後せん妄予防のための効果的な看護ケアに関する文献検討
10B080	安諸 美希	成人 (急性期)	林 直子	がん化学療法の有害事象である味覚障害への看護の検討
10B081	山口 美夏	学校 保健	岩辺 京子	日本の養護教諭とイギリスのスクールナースの比較 ～学校での役割や特性に着目して～
10B082	山田 花恵	小児	平林 優子	長期入院中の幼児期の子どもに対する遊びを取り入れたかかわりとその意味 ー看護師・医師・保育士・CLSの入院児とのかかわりー
10B083	山西 杏奈	母性・ 助産学	新福 洋子	産後1か月の褥婦の母親役割獲得の過程と必要なサポート
10B084	吉田 苑子	地域	小野若菜子	新人訪問看護師への支援体制の現状に関する文献検討
10B085	若林 美里	学校 保健	三森 寧子	思春期における「いじめ」の実態と支援について考える ー実際に職場で働く 教師及び看護学生へのアンケート、養護教諭へのインタビューを通してー
09B047	高木 慶子	教育	松谷美和子	認知症介護者の精神的負担 ～介護体験の「語り」から読み解く精神的負担の 原因と強み～
09B049	高橋 奈弓	基礎	佐居 由美	要介護高齢者の「思い」に関する文献的考察
11B072	板橋みずほ	教養・ 情報	中山 和弘	主要新聞社の記事にみる時代背景によるうつ病像の変化と医療化
11B073	遠藤まりえ	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	看取りを経験した病棟看護師が抱くターミナルケアの魅力
11B074	斉藤 典子	精神	角田 秋 大橋 明子	精神障害者きょうだいの精神保健医療福祉に関する思い
11B075	進藤 寛子	学校 保健	岩辺 京子	養護教諭の児童虐待への早期発見と支援のあり方 ー児童虐待事例に関わった養護教諭へのインタビューを通してー
11B076	杉山栄美子	管理	倉岡有美子	家族支援専門看護師の活動の実態と課題
11B077	高橋 孝	教養・ 情報	中山 和弘	エビデンスの効果サイズに対する一般社会の認知バイアスとその経済的影響評 価：精神科領域の事例を用いたベイズモデル（MCMC法）及び産業連関分析の 応用
11B078	伊達 尚江	精神	木戸 芳史	精神科訪問看護利用者の思いと、地域で求められる看護支援のあり方に関する 文献レビュー

学籍 番号	氏 名	領 域	指導教員	タイトル
11B079	田中 翔純	教養	鶴若 麻理	重篤な疾患を持つ新生児の治療方針決定に関する親の後悔を軽減するサポート
11B080	鶴見 晋親	管理	倉岡有美子	病院に勤務する看護師の給与と給与決定に影響を与える要因
11B081	徳永亜衣子	精神	大橋 明子	精神障害者のリハビリを促すためのストレスを生かした看護支援の具体的な実践方法 –ストレスモデルの視点から–
11B082	富澤 真希	管理	倉岡有美子	学士号を持つ看護系大学生が最終学年時に描くキャリアデザイン
11B083	小野 奈海	母性・ 遺伝	有森 直子	ウェブ上にみられる市民の遺伝子検査に関する関心事項
11B084	邊見由紀子	成人 (急性期)	池口 佳子	在宅療養を行う終末期がん患者の家族介護者の体験に関する文献的考察
11B085	星名 美佳	母性・ 助産学	蛭田 明子	流産、死産、新生児死にかかわる看護職が抱く感情に関する文献検討
11B086	増澤摩利子	精神	角田 秋	精神疾患を持つひとを地域で支える、日本におけるアウトリーチ支援：ACT(Assertive Community Treatment/包括型地域支援プログラム)の現状と課題
11B087	松村 晶子	成人 (急性期)	宇都宮明美	クリティカルケア領域における患者のアドボカシーに関する研究動向
11B088	松本 砂里	教養・ 情報	中山 和弘	職場のメンタルヘルス対策用eラーニングの現状と課題 –プログラムの信頼性、ポジティブ心理学普及度の視点からの検討–
11B089	望月 優加	成人 (急性期)	池口 佳子	手術室看護師が実施する術前訪問の現状に関する文献検討
11B090	山田 珠里	老年	梶井 文子	日本の認知症高齢者施設における物理的な住環境に関する研究の文献検討
11B091	米持 美穂	成人 (慢性期)	飯岡由紀子	患者の成人型アトピー性皮膚炎治療に対する認識とQOL維持・向上に必要なケアの文献的考察
07B081	竹内 博美	教養・ 情報	中山 和弘	医療の現場に『ナラティブ』という視点を生かす意義 ~看護師・患者間のコミュニケーションギャップの実際を通して~

【学部選択科目履修状況】

(新カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と文化	キリスト教倫理	1年	37
		音楽	1・2年	26
		美術	1・2年	53
		文学	1・2年	56
		哲学	1年	8
		倫理学	1・2年	8
		宗教学	1・2年	22
	人間と社会	歴史学	1・2年	5
		法学（日本国憲法）	1年	72
		教育原理	1年	49
		教育方法の研究	1年	21
		社会学	1年	48
		心理学	1年	39
		教育制度論	2年	9
		カウンセリング概論	2年	16
		教職概論	2年	8
		道德及び特別活動論	3年	12
	人間と言語	国語表現法	2年	2
		選択英語Ⅰ	1・2年	9
		選択英語Ⅱ	2年	0
選択英語Ⅲ		3年	6	

		授業科目	学年	人数
教養科目	人間と言語	海外語学演習	1・2年	10
		ドイツ語Ⅰ	1年	14
		ドイツ語Ⅱ	2年	2
		中国語	1・2年	3
	人間と情報	基礎統計学	1年	6
		生物学	1年	9
	人間と環境と自然	物理学	1年	12
		化学	1年	6
		体育Ⅰ	1年	73
	総合科目	体育Ⅱ	1・2年	82
		総合科目Ⅱ（健康科学）	1年	13
		総合科目Ⅲ（ボランティア活動学習）	1年	6
		総合科目Ⅳ（自校学習）	1年	6
		総合科目Ⅴ（国際交流演習）	1・2年	10
	基礎科目	環境と健康	保健統計	3年
専門科目	看護実践	学校保健	3年	81
		国際看護学	1年	82

(旧カリキュラム)

		授業科目	学年	人数
基礎科目	人間と社会	法学（日本国憲法）	4年	3
		教育課程論	4年	26
		道徳及び特別活動論	4年	28
		生徒指導論	4年	26
	人間と情報	統計学演習	4年	5
	体育	体育Ⅰ	3年	4
		体育Ⅱ	4年	3
	総合科目	総合科目Ⅳ （国際交流演習）	3・4年	
		教職実践演習	4年	28
	看護の基本	看護提供システムⅡ	4年	8
		看護技術論	4年	0
	人間の保持・環境の相互作用	生涯発達看護論Ⅲ	4年	開講せず
		家族発達看護論Ⅱ	4年	12
		地域看護論Ⅲ	4年	12
		養護概説	4年	28

		授業科目	学年	人数
人間と環境の相互作用の修正	人間の回復・保護	慢性期看護論Ⅲ	4年	0
		リハビリテーション看護論Ⅱ	4年	11
		急性期看護論Ⅲ	4年	44
専門科目	看護学統合	看護研究Ⅱ	4年	86
		総合看護	4年	14
		看護ゼミナール（権利が脅かされやすい状況にある子どもと家族の看護）	4年	2
		看護ゼミナール（遺伝看護）	4年	7
		看護ゼミナール（看護教育）	4年	1
		看護ゼミナール（国際看護）	4年	6
		看護ゼミナール（老年看護実践）	4年	1
		看護ゼミナール（学校における救急処置）	4年	28
		看護ゼミナール（自校史演習）	4年	0
		看護ゼミナール（生活行動が障害された患者とその家族への看護）	4年	3
		看護ゼミナール（がん看護）	4年	9
		看護ゼミナール（緩和ケア）	4年	3
		看護ゼミナール（チームチャレンジ）	4年	9
		養護実習Ⅰ	4年	28
		養護実習Ⅱ	4年	

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

授業科目	履修者数
対人関係の心理	3
多文化の世界	1
維持可能な社会と平和	1
立教大学の歴史	2
思索と人生	2

【立教大学科目履修状況】

	前期	後期
開講科目数	182	204
履修科目数	5	0
履修者数	9	0
単位習得率	100%	

(1)看護教育会議

1. 役割・職務

1) 主たる実習病院である聖路加国際病院看護部と連携をはかり、本学の看護教育の質の向上をはかることを目的とする。個別の実習科目については、看護部、教育研修部ならびに当該病棟との事前打ち合わせ、事後の報告・反省会を行うので、看護教育会議では実習全体の課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報を相互に提供しあう。

2. 活動内容

本年度は大学と病院の一体化に向けて、秋から病院看護部との定期的な連絡会（看護ワーキング）を行った。その中で、実習のやり方についての検討を重ね、次年度学部実習担当者を各部署に配置する方針が示され、役割の明文化をおこなった。また次年度の会議の持ち方も検討し、年4回うち2回は学部実習担当者も参加する事とした。

また、看護ワーキングで組織変更の説明会（3月）と、学部実習担当者の研修会（3月と4月の2段階）を計画し、実施した。

1) 会議

上記の目的で会議を4月、7月、2月の3回開催した。参加人数は4月は病院28名、大学37名、7月は病院32名、大学37名、2月は病院31名、大学38名であった。

2) 内容

4月：病院からは看護部の体制、新人オリエンテーション、採用計画、病院の新規事業計画等の報告があった。大学からは学校法人のもとでの大学と病院の一体化構想について、学長より説明を行った。その後、メンバー紹介、学生数、国家試験結果、カリキュラムの年間計画（実習計画を含む）、多様な学生の学びについて、チームビルディング力育成プログラム、研究センター事業、交換留学生等の報告を行い、大学の広報活動の病院との連携、実習のあり方について意見交換を行った。

7月：病院からは次年度の採用状況、新人職員の状況、大学からは学生の実習状況、入試日程、交換留学生等について報告を行い、大学院修士課程において看護教育学の上級実践コース（CNE）の開設、保健師育成を大学院教育へ移行することの計画について説明を行った。

2月：病院からの就職状況に関する報告のあと、次年度から試みる実習のやり方に関し、「実習部署スタッフの役割」「学部実習担当者の役割」「教員の役割」につい

て報告し、意見交換を行った。

3. 課題

1) 次年度は組織編成が大幅に変わり、看護部とのより緊密な連携を行って、大学の教育・研究の向上と、病院のスタッフ教育・実践の向上をともに目指す事となる。この目標を牽引できる有用な会議となるよう計画していく。

(2)教育会議

1. 役割

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一同に会し、その年度の本学の活動内容および次年度の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

2. 活動内容

毎年年度末に1回開催している。2013年度は3月20日（木）16：00～17：43に開催し、名誉理事長、理事長、学長、専任教職員（69名）、客員教授（5名）、兼任教授（2名）、非常勤講師（10名）、臨床教員（3名）、新任教職員（8名）、出向者（4名）計104名の出席があり、以下の内容で進められた。

- 1) 名誉理事長挨拶
- 2) 理事長挨拶
- 3) 学長挨拶
- 4) 大学の状況報告

事務局長より、将来構想を踏まえた2013年度の重点目標評価について、達成度の報告があった。その他、学部長より教育活動、研究センター長より研究活動、学生部長より卒業生・修了生の動向について、それぞれ報告があった。

5) 法人一体化に伴う組織体制について

事務局長より、2014年度からの学校法人聖路加国際大学の組織体制について組織図をもとに説明があった。さらに、学部長より教育組織を5部門に再編したこと、2014年度の委員会についての説明があり、事務局長より事務組織について説明があった。

6) 2014年度の教育計画について

事務局長より、2014年度の重点目標について説明があった。学部長からは学事暦について、本年度は暦通りに授業を実施するが、11月のみハッピーマンデー対策として、土曜日に2回補講日が入る旨の説

明があった。また、教務部長からは授業実施計画および新入生の報告があった。

7) 教育に関する意見交換

前回話題となった英語教育について、国際化推進委員会委員長より、今年度実施された交換留学、グローバルヘルスセミナー、N-CLEX 講座等の紹介があり、2015年にはイリノイ大学への留学や外国人患者とのロールプレイングを取り入れた医療英語などの実施を計画しているとの報告があった。

学生が留学を考える際の費用の問題が挙げられ、助成金の設立や予算措置をしてほしいとの意見があり、具体的に検討していくことになった。

3. 課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。外部講師の出席者が少ないことは変わっていない。今回は、病院との法人一体化についての報告があったため、意見交換の時間が少なくなってしまった。法人一体化に伴い、今後、この会議が有効に機能していくために、どのように実施していくか検討していく必要がある。

(3) 養護教諭養成プログラム運用委員会

1. 役割・職務

- 1) 養護教諭一種免許取得に係るカリキュラムの運用を探る。
- 2) 養護教諭養成の将来の在り方を探る。
- 3) 在学生・卒業生の進路と動向について把握する。

2. 活動内容

- 1) カリキュラム内容及び履修時期について検討し、適正化を探る。
- 2) 履修カルテの検討・作成。
- 3) 本学における養護教諭養成に関して検討する。
- 4) 学生・卒業生の進路を把握し、可能な援助を検討する。

3. 課題

- 1) 養護実習と教員採用試験に関すること。
- 2) 科目内容及びカリキュラムの在り方。

4. 資料

なし

(4) 多様な学生の学びに関するプロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 多様な学生の学生生活および修学・就職支援に関すること
- 2) 支援を行うための財源の確保と物品の調達

2. 活動内容

- 1) 聴覚障害学生の情報保障に関するニーズの把握と支援方法の検討
- 2) パソコンテイク、ノートテイク、手話通訳、DVD/ビデオ教材文字起こし等の手配並びに支援に関わる人件費の処理
- 3) 実習・インターンシップ時における手話通訳士の保険加入手続き
- 4) 財源の確保および実習必要物品（電子血圧計カフス等）の購入
- 5) 音声認識システムの試用と評価
- 6) 科目・実習担当教員による履修状況等の情報交換
- 7) 「就職・進学ガイダンス」の情報保障
- 8) 就職およびインターンシップに関する学生部長との個別面談調整
- 9) 「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2014」（全国障害学生支援センター）への回答
- 10) 2014年度学士編入学入学生への教務部長・学生部長による入学前相談の実施およびFS ミーティング内での教職員への周知

3. 課題

- 1) 私学事業団補助金の削減に伴い本学での予算化が必須となること
- 2) 各科目によって講義形態、資料作成方法が異なり、実習は領域や対象者によって個々に支援内容の検討が必要であること
- 3) 講堂、校舎外など広い場所ではさらに情報伝達の困難さが生じること
- 4) 4年次「養護実習Ⅰ・Ⅱ」における情報保障の検討
- 5) 内部障害および精神的な問題を抱える学生への支援方法の検討
- 6) 聴覚障害を持つ次年度新入生への支援方法の検討

(5)公衆衛生看護学実習プロジェクト

1. 役割・職務

- 1) 公衆衛生看護学実習に31名以上が履修することへの対応

2. 活動内容

会議を5回実施、また福島県いわき市、長野県松本市に出向いて担当者間の会議を実施し、以下のことを検討および実施した。

- 1) 公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先としていわき市、松本市の承諾を得た。
- 2) いわき市、松本市の担当者と実習目的・目標、内容、実習方法、実習する保健センターと学生数、宿泊場所、移動方法などについて打ち合わせを行った。
- 3) 特別区および小鹿野町以外で実習する学生の保健所実

習について、いわき市保健センターでの受け入れの承諾を得た。また、いわき市までの移動方法、実習のスケジュールおよび内容を決め、いわき市の承諾を得た。

- 4) 公衆衛生看護学実習Ⅰの領域および実習場所を確認、決定した。
- 5) 公衆衛生看護学実習ⅠⅡの実習担当者を各領域の確認を取りながら確定した。
- 6) 総合実習領域選択および公衆衛生看護学実習Ⅱガイドランスの資料、内容、進め方について検討し、実施した。
- 7) 公衆衛生看護学実習ⅠとⅡの希望の取り方および割付け方法を検討し決定、および実施した。

3. 課題

- 1) 公衆衛生看護学実習ⅠⅡ実施において生じる問題への対応と効果的な運用のための検討。
- 2) 2015年度実習に向けた準備

2 看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数（2013.4現在）

修士課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	看護：15	19 (7)
	ウィメンズ：15	18 (1)
2 年	看護：15	24 (5)
	ウィメンズ：15	16 (0)
3 年	看護	6 (6)
	ウィメンズ	1 (1)
計	60	84 (140.0%)

博士後期課程

学 年	収容定員	現 員 数
1 年	10	13
2 年	10	12
3 年	10	25 (内留年者 13)
計	30	50 (166.8%)

()：社会人うち数

大学院入学状況

	修士課程						計
	当該大学 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
		国立	公立	私立			
看護学専攻	7	2	2	8	0	0	19
ウィメンズ	8	1	4	5	0	0	18

	博士後期課程						計
	当該大学院修 士課程 出身者	他大学出身者			外国の 学校卒	その他	
		国立	公立	私立			
博士後期課程	8	3	2	0	0	0	13

看護基礎教育機関別入学状況（2013年度入学者）

		看護教育機関	大 学	短期大学	専門学校	なし	計
入 学 者 数	修士 課程	看護学専攻	18	0	1	0	19
		ウィメンズ	16	1	1	0	18
	博士後期課程		11	1	1	0	13

修士課程大学（学部）卒業年別入学状況（2013年度入学者）

大学卒業年度		2013年3月 大 学 卒	2012年3月 大 学 卒	2011年3月 以前大学卒	その他* (外国卒等)	計	左記のうち 有 職 者 数
入 学 者 数	看護学専攻	1	1	18	0	19	18
	ウィメンズ	9	0	9	0	18	9

*その他に大学評価・学位授与機構を含む

研究生等の学生数（2013年度）

研 究 生		計
学部卒以上	左記以外	
0	3※	3

※修士課程修了者

大学院修了者数

修 士 課 程		博士後期課程 (学位授与)	博士後期課程 (単位取得後退学者)	論文博士 (学位授与)
看護学専攻	22 うち社会人 5	11 (4)	0	1
ウィメンズヘルス・ 助産学専攻	16 うち社会人 1			

() 内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

授業科目	単位数	履修者数	単位取得者数
急性期看護学特論Ⅲ	2	1	1
急性期看護学特論Ⅲ	2	2	2
実習（急性期看護学）	6	1	1

研究生受け入れ状況

指導教授	研究生数
田代順子教授	1
菱沼典子教授	1
松谷美和子教授	1

大学院受入状況（2013年度実施）

修士課程	学内推薦	I期	II期	看護教育学 特別入試
試験日	2013年7月24日	2013年9月12日	2013年2月27日	2013年12月13日
願書受付期間	2013年7月3日 ～7月10日	2013年8月21日 ～8月28日	2013年2月5日 ～2月12日	2013年12月3日 ～12月5日
募集人員	若干名	㊦： 12 ㊧： 12	㊦： 3 ㊧： 3	若干名
志願者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 17 うち社会人 4 ㊧： 15 うち社会人 0	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5
受験者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 17 うち社会人 4 ㊧： 15 うち社会人 0	㊦： 12 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5
合格者数	㊦： 1 ㊧： 5	㊦： 11 うち社会人 3 ㊧： 12 うち社会人 0	㊦： 11 うち社会人 3 ㊧： 12 うち社会人 0	5
入学者数	㊦： 1 ㊧： 3	㊦： 9 うち社会人 3 ㊧： 8 うち社会人 0	㊦： 8 うち社会人 3 ㊧： 3 うち社会人 2	5

㊦：看護学専攻 ㊧：ウィメンズヘルス・助産学専攻

博士後期課程	I期	II期	研究生
試験日	2013年10月17日	2014年2月27日	
願書受付期間	2013年9月24日 ～10月1日	2014年2月4日 ～2月12日	2014年2月13日 ～2月13日
募集人員	8	2	若干名
志願者数	15 うち社会人 8	5 うち社会人 2	5 (継続1を含む)
受験者数	15 うち社会人 8	5 うち社会人 1	—
合格者数	12 うち社会人 7	3 うち社会人 1	—
入学者数	12 うち社会人 7	3 うち社会人 1	5 (継続1を含む)

(1)がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

1. 役割・職務

平成24年4月からは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）に参画し、2年目となった。本事業の目的としては以下の3点である。
①複雑化するがん患者の問題に関わる看護職の支援（継続的な教育の提供、がん看護の有資格者の資格取得後のブラッシュアップ）
②各専門領域や大学間の連携を強化した協働プロジェクトの実施、
③先進的な教育を行う海外の教育・研究機関との連携を一層強化した人材交流である。

2. 活動内容

①大学院修士課程において、がん看護上級臨床実践コースとしてがん患者に特化したフィジカルアセスメントや、がん患者の生殖医療、がん特有の症状マネジメントに関する講義と演習を踏まえ、がん治療専門施設、在宅緩和ケアを実施する訪問看護ステーションにおける実習を実施した。各科目においてはがん治療専門医やがん看護専門看護師等に講師・指導を依頼し、複雑化するがん治療や多様な療法の場で生かす、系統的な専門知識、技術、態度の育成を図った。

②がん化学療法看護認定看護師教育課程として6月～2月に教育コース(615時間)を実施し、21名が受講、フィジカルアセスメント演習や、中心静脈挿管シュミレーターを用いた薬剤投与管理演習を取り入れ、19名がコースを修了した。今年度がん化学療法認定看護師資格取得者は26名であった(2012年度修了生25名、2011年度修了生1名)。

③がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受ける candidates、がん看護専門看護師を対象にしたがん看護事例検討会を実施した。また、がん看護専門看護師が主催するコンサルテーション事業を開催した。がん化学療法看護認定看護師を対象にしたスキルアップセミナーを開催し、99名が参加した。2013年度 CNS 資格取得者は2名である。

④2月には、ハワイホスピスの Kenneth L. Zeri 氏 (RN,MSN,NHA / Hospice Hawaii President &CPO) を講師に迎え、『在宅緩和ケアにおける高度がん看護実践と課題』をテーマにがん看護国際セミナーを開催した。当日は、大雪にもかかわらず参加申込

のあった150人のうち80名が参加した。さらに、Kenneth L. Zeri 氏を講師に、大学院修士課程の学生と、がん緩和ケアなどの研究課題に関するコンサルテーションを行った。3月には、The Annual Assembly of the American Academy of Hospice and Palliative Medicine (AAHPM)に参加し、全米におけるホスピスケア、特にがんに関する緩和ケアに関すること、がん緩和ケアに関する看護師の教育プログラム、多職種協働についてのシンポジウムや教育講演等に参加し、情報収集を行った。

3. 課題

大学間の連携が求められていることから、プロジェクト10の大学間の連携を強化していくことである。今年度は、国際セミナーを開催するとともに、海外招聘講師からコンサルテーションを受ける機会を設けた。これにより昨年度課題とされた国際性を習得する一助となったと考える。次年度も海外の研究機関、医療機関と連携し学生が国際的視野を持ち研究活動に携われるよう機会を設ける予定である。また、コース受講生の継続獲得並びに増加についても今後の課題とする。

(2)アジア・アフリカ学術基盤形成事業

タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成

1. 役割・職務

「アジア・アフリカ助産研究センター」共同研究拠点を形成し、交流を通して東アフリカ初となる助産学専門の修士課程をタンザニア・ムヒンビリ健康科学大学に設立する。

最終的な目的は、高い妊産婦死亡率の続くタンザニアにおいて、大学院教育を推進することで、助産教育を向上させ、Women-centered Care (女性中心のケア)、Evidence-based Practice (エビデンスに基づいた実践)の概念に沿った臨床助産ケアの改善と妊産婦の健康の改善をもたらすことである。

2. 活動内容

1) 研究者交流・セミナー

2013年5月に開催したタンザニア助産師3名を招聘してのセミナーは、東京で行われていたアフリカ

開発会議の開催時期とも重なり、学内外から80名を超える参加者があった。現地の助産師が病院で多くの出産、合併症を持つ産婦と向き合いながらも、昨年活動の一つである **Humanized Childbirth** セミナーでの学びから、産婦のプライバシーを守ることの意義を考え、分娩室（大部屋）にカーテンを取り付けたことが報告された。そのほかにも助産師の仕事に関する高校生へのリクルートを目的とした広報活動などの報告に、多くの関心が寄せられた。日本の市民に対し、本学の国際活動を周知することができた。

また、大学院修士課程助産学2年生6名、国際看護学1年生1名、教員2名が派遣され、現地の病院、診療所、大学、JICA 事務所を訪問し、現地の医療の現状を学ぶことができた。助産学の院生は現地の助産師、学生に対し、日本の助産、母子保健に関するプレゼンテーションを行い、日本とタンザニアの違いや今後のケアの改善などを話し合った。

2) 研究

派遣された修士課程の院生のうち、1名が修士論文、2名が課題研究のテーマとして、タンザニアでデータ収集・分析を行い、英文で執筆を行い、下記の3つの論文を提出した。

- Kana Shimoda ; Midwives' Intrapartum Monitoring Process and Management Resulting in Emergency Referrals in Tanzania
- Nao Tanaka ; Midwives' Expectations and Learning Needs for Professional Development in Tanzania
- Aiko Itokawa ; Evaluation of a Reproductive Health Awareness Program for Adolescence in Rural Tanzania : A Quasi-Experimental Pre-test Post-test Research

国内学会では2つ発表を行った。

- 竹内翔子（聖路加看護大学大学院）、下田佳奈（聖路加看護大学大学院）、高畑香織（聖路加看護大学大学院）、長松康子（聖路加看護大学）、江藤宏美（長崎大学）、新福洋子（聖路加看護大学）、堀内成子（聖路加看護大学）；タンザニア「人間的な出産」セミナーにおける助産師の認識の変容、日本ヒューマン・ケア心理学会 学術集会第15回大会(東京)、7.6-7.2013.

- 若井翔子（聖路加看護大学）、新福洋子（聖路加看護大学）、長松康子（聖路加看護大学）、八重ゆかり（聖路加看護大学）、江藤宏美（長崎大学）、毛利多恵子（毛利助産所）、堀内成子（聖路加産科クリニック）；タンザニア「人間的な出産」セミナーによる“女性を中心とするケア”の認識、第27回日本助産学会学術集会（金沢）、5.1-2.2013.

国際学会での発表は、2014年2月にマニラで開催された EAFONS にて、3年間の活動報告を行った。

- Shimpuku, Y., Horiuchi, S., Matsutani, M., Eto, H., Nagamatsu, Y., Oguro, M., Iida, M., Yaju, Y. “Partnership Model of Global Collaboration: The Shared Value of Humanized Childbirth in Tanzania,” 17th East Asian Forum of Nursing Scholars (Manila, Philippines) February 20-21, 2014

次年度の活動を継続するために、日本学術振興会国際交流事業に平成26年度申請を行ったが不採用となった。しかし、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の国際共同研究助成に応募した「アフリカにおける思春期プロダクティブ・ヘルスプロモーション」の研究は採用されたので、2014年度へと続く研究活動の目途が立った。

3. 課題

本年度は国際的な助産研究に携わる意思を持つ日本側拠点機関の大学院生7名の派遣と、研究活動の実施を行うことができ、国際協働の難しさと、それを乗り越えるチームワーク、コミュニケーションに関して多くの学びを得た。今後研究活動を継続するためには、持続的に教員や大学院生の派遣が可能となるシステムづくりと資金の確保が課題である。

(3)文部科学省平成25年度専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 「チームビルディング育成プログラム」推進委員会

1. 役割・職務

- 1) 平成23年度～平成25年度文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業の採択を受け、大学

院修士課程において、People-Centered Care（以下PCC）を基本概念としたチーム医療を推進する高度看護実践家の育成を目的として、新規開講科目「特別講義『チームビルディング』」のカリキュラムを作成・実施し、最終年度としての総括評価を行う。

- 2) 特別講義「チームビルディング」の科目構成は、
- 1) PCC の概念とシステムズアプローチ、保健医療におけるチームとは(講義)、
 - 2) チームを作る方策を体験型学習により習得する演習、
 - 3) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学(見学実習)、
 - 4) 実習におけるチーム作りの体験、
 - 5) 課題研究で複合的に構成し、保健医療の中での学際的チームを作る力を育成し、チーム医療の効果を評価する視点をもつことができるように意図した。
- 3) 演習では、米国ミシガン大学レクリエーション・スポーツ学部部長ジョン・スワドロウ氏、エリザベス・ゾルウェグ氏を招請し、軽井沢町において2泊3日の宿泊演習を開催した。両氏がミシガン大学で長年実践している「チャレンジプログラム」を本セミナーに導入し、体験型学習サイクルを用いて、チームを作る方法やコミュニケーションのとり方、メンバーやリーダーとしての役割発揮の方法、事例分

析等を学習した。このセミナーを安全に開催するため、2年前からプログラム内容の事前打ち合わせ、使用する用具の準備、宿泊先の確保と詳細打ち合わせ、TAの確保を行った。

- 4) モデルとなるチーム医療の実践現場の見学については、上級実践コースの担当教員が推薦した医療機関7機関を選定し、事前の調整後、履修者が数名ずつ各機関へ見学に出向いた。
- 5) 課題研究では「リエゾンチームにおけるチームビルディング」をテーマとして、チームの実際の機能を検討する取り組みを行っている履修者があり、現在論文作成中である。

2. 活動内容

- 1) 特別講義『チームビルディング』のカリキュラム作成、実施、および評価平成23年度にカリキュラム全体を検討し、シラバスを作成した。24年度の課題をもとに、今年度は開講時期を9月の第1週とし、講義、演習は短期集中で履修し、その後9月中旬から1月にかけて見学実習に出向いた。その後、課題研究のテーマを検討し、各領域での実習を行いながら、課題研究をすすめているところである。

2) プロジェクトミーティング、オリエンテーション等の開催

表1 プロジェクトミーティング等の経過

開催月日	主な議題
4月11日	・大学院生への科目オリエンテーションの実施
7月23日	・院生への宿泊演習のオリエンテーションの実施について ・参加申込みについて ・チャレンジプログラムについて ・履修者のグループ分けについて ・グループワークの事例の作成について ・モデルチーム医療の見学先について ・大学院教育セミナーの開催について ・通訳の手配について ・バスの手配について
9月3日	・宿泊演習の内容について ・宿泊先ホテルとの最終確認(人数、部屋割り、名簿、インターネット環境)について ・モデルチーム医療見学要項について ・スワドロウ氏、エリザベス氏との事前打ち合わせについて ・使用する道具の確認について ・通訳、TAとのプログラム打ち合わせについて ・大学院教育セミナーの参加申し込み状況について

9月6日～ 9月8日	・ 宿泊演習開催(軽井沢町すずかる荘)
11月26日	・ 宿泊演習の debriefing、および課題の明確化について ・ アンケート分析結果について ・ チーム医療見学の進捗について ・ 論文投稿の報告について
1月17日	・ チーム医療見学の報告について ・ 科目レポートの採点方法について ・ 本事業の第三者評価について ・ 実習ネットワーク会議の準備について(招待者、プログラム内容、司会) ・ 2014年度シラバス作成について

3. 課題と解決策

- ・ 9月第1週に講義、および宿泊演習を連続した日程で行い、見学実習もその後すぐの時期である9月中旬からスタートするよう変更し、学習に連続性を持たせることができた。
- ・ チャレンジプログラムを導入したことは、体験型学習サイクルに基づいてチーム作りを理解することにつながったため効果的であった。今後も継続する。また、複合的な科目構成は特に有用であった。
- ・ チャレンジプログラム進行中の各アクティビティ後の debriefing を促進するよう、講義の中でチャレンジプログラムの導入を行った。今年度は深い debriefing が行われた。

4. 履修者による評価

今年度の履修者は24名で、専攻領域は表2の通りであった。前年と同様の方法で、履修者による宿泊演習参加前後について、相互独立的一相互協調的自己観尺度、チームアプローチ尺度を用いて評価した。

履修者のプログラム参加前後の相互独立的一相互協調的自己観尺度得点の変化はプログラム参加後には有意に「独断性」、および「評価懸念」が有意に低下していた。チームアプローチ力については、「コミュニケーション」「関係性・メンバーシップ」「問題解決への取り組み」「自身の貢献・自信」の全てが有意に向上していた。また、各プログラムの満足度はいずれも高く(図)、参加日別の満足度は、2日目が高かった(図)。前年度と結果は同様の傾向であったが、平成25年度の履修者の方が相互独立的一相互協調的自己観尺度の「評価懸念」、および「チームアプローチ尺度」の下位項目全てについて点数の変化量が大きかった。

5. 評価

平成25年度は、科目の開講時期と内容を改善したことにより、よりチーム力を身につける教育を行うことができたことと評価でき、履修者の満足度も高かったことから、事業の目的は達成されたと捉えられた。

尚、補助事業が終了するにあたり、複合的な科目構成は継続し、科目の運営、特に宿泊演習の方法を検討する必要がある。一方で、チームビルディング力を身につける上でチャレンジプログラムの有用性は非常に高いため、宿泊演習を自己負担となっても継続する方法や、宿泊せずに学内のスペースで実施する方法などを検討した。最終的には、連続した2日間をとって学内で実施する方法を検討することとなった。

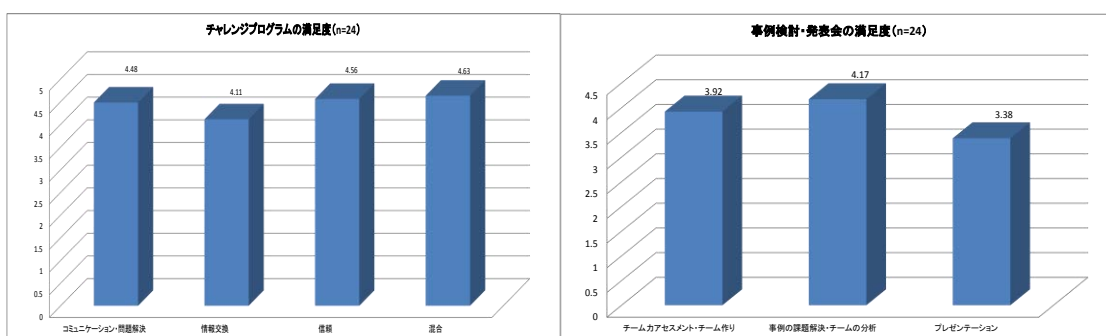
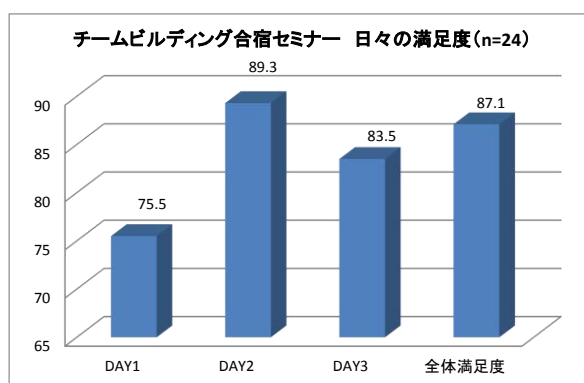
6. 最終年度の総括評価

- 1) 本科目の履修者は計48名で、看護学専攻、ウイメンズヘルス・助産学専攻両者で構成され、専攻領域は多岐にわたっており、学習ニーズが高い科目であった。
- 2) 講義(PCC、システムズアプローチ、チームの理論等)、宿泊演習(ミシガン大学チャレンジプログラムを取り入れたチームアプローチ宿泊演習)、見学実習(モデルチーム医療見学)、実習、課題研究による複合的に構成する本科目は、チームビルディング力を短期間で向上させ、チームのプロセスを向上する上で有効であると考えられた。
- 3) 臨床教員、第三者評価者による本事業への評価は肯定的であった。大学院修士課程においてチームビルディングの理論を学び、チームビルディング力を身につけることは、修了後の現場でのストレスフルな状況にあっても、チーム医療を牽引する上で必要である力を身につけられ、非常に有用であると評価された。

7. 資料データ

表2 履修者の専攻領域

上級実践専攻領域	性別	男性	女性
	ウイメンズヘルス・助産学専攻		-
看護学専攻			8名
内訳			
周麻酔期看護学		-	-
小児看護学		-	-
急性期看護学		2	1
在宅看護学		-	-
がん看護学		-	1
遺伝看護学		-	3
精神看護学		-	1
計			24名



投稿論文

亀井智子、飯岡由紀子、片岡弥恵子、宇都宮明美、山田雅子、萱間真美、菱沼典子. (2014). 大学院修士課程特別講義「チームビルディング」(2011年度～2013年度文部科学省大学改革推進等補助金 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業)の総括評価、聖路加看護大学紀要、第40号、9-18.

掲載雑誌

- 亀井智子. (2014). 「WHO NEWS 聖路加看護大学大学院におけるチームビルディング力育成プログラム」、看護 66 (3)、79.
- 亀井智子. (2014). 「高度実践看護師に必要なチームビルディング力」、週刊医学界新聞、第3077号、4.

作成した website

<http://www.slcn.ac.jp/graduate/master/team-building.html>

(4)フューチャー・ナースファカルティ育成 プログラム(FNFP)

1. 役割・職務

- 1) 看護教育学上級実践課程 Clinical Nurse Educator(CNE)コース開設に係る準備
- 2) 25年度TAプログラムの実施と26年度計画の立案
- 3) 26年度研究活動メンタリングの計画の立案
- 4) FNFPに関する広報活動と評価活動
- 5) FNFPに関する学習設備の整備

2. 活動内容

- 1) ①看護教育学上級実践コース(CNE コース)のカリキュラムの構築
②26年度入学試験の実施と入学者5名の決定
- 2) ①各プログラムの構築
②教育学セミナーの開催 (3月11日、13日 10:00-16:30)
- 3) ①プログラムの構築
②研究活動メンタリングに関する学内現状調査
- 4) ①本学ホームページを用いた事業内容広報
②教職員・大学院生に対する説明会の開催
③大学院生に対する説明用ブックレットの作成
④2013年度 FNFP 事業報告による事業の周知を目的としたパンフレットの作成
⑤学内外の看護学教育に携わる者を対象としたオープンレクチャーの開催
⑥米国人看護教育学専門家クリス・タナー氏による、学内外からの看護学教育・研究に関するコンサルテーションの企画と実施
⑦外部評価者によるプログラム評価会の開催
- 5) ①Learning Support System [manaba] の選定と導入
②教員養成用実習室の整備

3. 課題

- 1) 看護系大学に対し、CNE コースのカリキュラム内容に対する理解を広める。
- 2) 大学院生に対するプログラムの周知を促進し、参加者を最大限に確保する。
- 3) 学内での研究活動支援の現状に適応したプログラム計画に改善する。
- 4) FaceBook などプロセスがみえる親しみのある媒

体を使用し、広報活動を活性化させる。

- 5) Learning Support System を FNFP 事業で活用する。

4. 資料・データ

- 資料1 本年度事業参加者人数
資料2 看護教育学上級実践コース(CNE コース)のカリキュラム
資料3 教育学セミナーアンケート集計結果
資料4 研究活動メンタリングに関する学内調査
資料5 大学院生に対する説明用ブックレット
資料6 外部評価会での指摘項目
資料7 Learning Support System の使用状況
資料8 教員養成用実習室整備状況

(5)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

1. 役割・職務

文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を受け、地域住民のヘルスリテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材開発のため今年度は次の事業を実施した。(詳しくはHP参照：

<http://www.slcn.ac.jp/research/healthliteracy.html>)

- 1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査
- 2) 地域の公共図書館と連携を検討するための会合
- 3) ヘルスリテラシー学習拠点形成のための勉強会
- 4) ヘルスリテラシー情報を提供するための環境整備

2. 活動内容

- 1) ~3) については資料参照
- 4) ヘルスリテラシー情報を提供するための環境整備
図書館分室の利用者がヘルスリテラシーを身につけるための健康・医療情報を見つけやすいように本棚を追加し、資料の配置を変更した。

3. 課題

- 1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査の分析を基にした実態調査
- 2) ヘルスリテラシー関連図書などの情報整備
- 3) 地域の公共図書館と連携の継続

4. 資料

1) ヘルスリテラシーに関する実態及びニーズ調査

研究課題：住民のヘルスリテラシー調査	本学が市民に提供する健康相談を利用した者の相談用紙を対象にした住民のヘルスリテラシー調査を3か月間（1月～3月）実施した。
--------------------	---

2) 地域の公共図書館と連携を検討するための会合

開催日	会議の概要	会場	参加人数
2/4	本事業の趣旨説明、市民への医療情報サービスの現状、図書館連携の可能性、今後のすすめ方、中央区京橋図書館見学	中央区京橋図書館鑑賞室	7名
2/18	聖路加看護大学図書館分室見学、連携の具体案、情報交換方法	ぼるかルーム	10名

3) ヘルスリテラシー学習拠点形成のための勉強会

	開催日	勉強会概要	講師	会場	参加人数
1	11/25	「ヘルスリテラシーってな～に？」	中山和弘（聖路加看護大学教授）	ぼるかルーム	15名
2	3/12	市民が学ぶ場としての図書館づくり～伊万里市民図書館の実践から学ぶ～	犬塚まゆみ（元伊万里市民図書館館長）	ぼるかルーム	34名
3	3/27	「PBL(Project Based Learning)をPBLで学ぶ。」	日向野幹也（立教大学教授）	402 講義室	20名

3 図書館

(1)図書館

1. 役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」、「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

2. 活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「4 資料・データ」にまとめた。

- 1) 情報技術を用いたアクティブラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり

【課題】eラーニング等の情報技術を用いたアクティブラーニングを支援する人材育成のための仕組みを検討する。保健医療領域において、学術情報の活用にかかわる図書館員が果たす役割は大きい、その育成が課題となっている。

【対応】前年度、情報技術を用いたアクティブラーニングによるモデル授業を実施、その支援の試行を通して、求められる人材のスキルを明確にすることを目指した事業を計画した。今年度の図書委員会において計画の見直しがあり、改めて学生を対象とした学習支援サービスのアンケート調査を行うこととなった。フォーカスグループインタビュー（学生10名）による予備調査（8月2日）を経て質問紙調査（1月21日～3月17日）を行った。質問紙は学内イントラネットにアクセスする形式とし148件の回答を得た。次年度は、調査結果をもとに、求められる学習支援サービスを明確にし、適切な人材配置を検討する。

- 2) 電子的な情報源の積極的な収集と維持

【課題】eラーニング・システムとの連携、学外または社会人の学習活動を支援するために、電子リソースの積極的な収集と、費用を抑え安定した提供を維持することが求められる。

【対応】電子ジャーナル、文献データベースの契約に際し、蓄積したデータをもとに、各リソースのアクセス単価を算出し検討した。法人一体化に向けて、聖路加国際病院医学図書館と連携して交渉し、利用者のニーズが高いリソースについては、予算の範囲内で、どちらのエリアからもアクセスできるようにした。電子ブ

ックについては、情報収集を行い、蔵書として適切なものを選定した。全購入図書（1,001件）のうち電子ブックは82件（8.2%）を受け入れた。

- 3) 情報源の電子化に対応した書架の再編成

【課題】蔵書冊数は、すでに書架の収容冊数を越えている。構想段階の学習空間（施設・設備）の整備完了まで、増加分を収容するため、教育・研究に支障がない範囲で、冊子資料の除籍または移動を行う必要がある。

【対応】前年度購入した Lippincott Williams & Wilkins 社のアーカイブコレクションを中心に、電子ジャーナルによる永年の提供が保証された部分の冊子資料を廃棄（4,371冊）、資料の移動を行った（8月8日～9日）。

- 4) 法人一体化に向けた組織・サービスの統合

【課題】聖路加国際病院との法人一体化に向けて、規程類を整備し組織・サービスの統合を行う必要がある。契約・申請等、対外的に新法人として統合するための準備を行う。

【対応】規程類の整備として「聖路加看護大学図書館規程」「聖路加看護大学図書館利用細則」を含む10件の改廃を行い、「聖路加国際大学学術情報センター規程」ほか2件の新設を行った。国立情報学研究所（NACSIS-CAT, NACSIS-ILL 参加）への変更申請を行うとともに、電子リソース・業務委託等の契約を統合した。また図書館サービスの統合にあたり、課題であった看護大学エリアの24時間開館を可能にするために、セキュリティ強化（監視カメラの設置、警備員の巡回拡張）の準備をおこなった。次年度以降、図書館システムを統合し、業務の再編成を行う。さらに両館の施設を統合し、アクティブラーニングや臨床に即した研究を有効に支援するために図書館機能を拡張する。

3. 課題（重点目標）

- 1) アクティブラーニングを支援するサービスの明確化と適切な人材配置の検討
- 2) 図書館システム統合の計画
- 3) 図書館・アクティブラーニング施設の改修計画

4. 資料・データ

表1 開館日数と入館者数

開館日数 (日)	275
うち土曜開館	44
入館者数 (人)	112,227
1日平均入館者数	408
(夜間)1日平均入館者数	27

表2 館内複写件数

複写機	122,383
月平均	10,199
プリンター	261,973

表3 ノートPCの貸出 (件)

学部生	院生	教職員	その他	計
287	45	3	7	342

表4 資料別の貸出し数

	学部生	院生	教職員	その他	総計
図書 (冊)	7,001	3,098	921	1,569	12,589
雑誌 (冊)	1,235	584	182	339	2,340
視覚覚資料 (巻)	588	9	43	3	643

表5 利用者別貸出し総件数

1年生	2年生	3年生	4年生	修士	博士	教職員	
715	2,355	3,559	2,195	3,157	534	1,146	
科目等履修生	研究生	研修生	卒業生	聖路加国際病院職員	研究センター研修生	その他	総計
0	0	0	567	694	604	46	15,572

表6 分野別貸出し冊数ベスト5 (冊)

1位	2位	3位	4位	5位
WY(7,201)	W(561)	BF(470)	WB(461)	WA(414)

表7 電子ジャーナルのダウンロード数 (件)

利用ポータル	全文ダウンロード
EBSCOhost(CINAHL)	3,167
Journals Consult	1,711
Wiley Online Library	8,493
OVID SP	3,792
ProQuest	1,435
メディカルオンライン	20,573
CiNii	1,074

表8 カウンターにおけるレファレンス件数

	学生・院生	教職員	その他（学外者、研究生、 博士研究員など）	計
所在・所蔵調査	298	26	14	338
事項調査	33	5	2	40
利用指導	282	29	68	379
文献検索相談	35	1	0	36
その他	83	7	5	95
計	731	68	89	888

表9 オンライン相談件数

	学生・院生	教職員	その他（学外者、研究生、 博士研究員など）	計
所在・所蔵調査	0	0	0	0
事項調査	0	0	0	0
利用指導	5	0	0	5
その他	0	0	0	0
計	5	0	0	5

表10 来館した学外利用者数

	学生・院生	教職員	その他	総計
人 数	18	12	11	41
複写件数	115		10	125

表11 相互利用（文献複写）件数

当館から他館への申込件数		1,447	他館から当館における受付件数		1,056
申込者別 内訳※	学部生	233	受付館種別 内訳	大学・短期大学	849
	院 生	997		その他	143
	教職員	213	謝絶		64
	その他	4			
申込先館 種別内訳	大学・短期大学	1,088			
	NDL	25			
	聖路加国際病院	251			
	海外(BLDSC,NLM)	2			
	その他	81			

表12 蔵書点検結果（不明資料数）

	和	洋	合 計
図 書（冊）	39	6	45
雑 誌（冊）	16	20	36

表 13 図書館利用教育

オリエンテーション	対象： 学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生、新入教職員
授業との連携	授業名（対象学年）： 情報処理演習（学部1年、学士編入2年）、周産期看護学（学部3年）、看護研究Ⅰ（学部4年）、看護研究法（大学院修士、博士1年）
研究センターとの連携	授業名（対象課程）： 看護情報論（認定看護師ファーストレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程）、文献検索～準備体操（ナーススキルアップ）
学生の要望による文献検索ガイダンス	希望する大学院生、学部生のグループに、希望する内容でガイダンスを実施

表 14 展示図書

授業名	展示期間	展示内容
おすすめ本	2013年4月1日～4月5日	教職員おすすめ本「るかこの棚」に掲載した図書
大学の勉強ってどうやってやるの展	2013年4月2日～4月20日	大学での学び方等の図書、形態機能学のノートコピー
周産期看護学（実践方法）	2013年4月8日～5月4日	指定図書、模型、パネル
形態機能学 図書フェア	2013年5月6日～6月5日	形態機能学に関連する図書、模型
認定看護師教育課程 レポートの書き方展	2013年6月7日～6月29日	レポートの書き方に関する図書
教員の著作展	2013年6月28日～29日、 8月2日～4日	オープンキャンパスに合わせて、 本学教員による図書を展示
形態機能学秋の図書フェア	2013年9月11日～10月31日	病理学、組織学、解剖・生理学の 図書、模型
周産期看護学（基礎）図書フェア	2013年9月27日～11月8日	関連図書、模型、パネル

表 15 社会的活動

	対象機関	派遣者
研修等の講師	東京都ナースプラザ（実習指導者研修）	松本直子
	日本看護図書館協会（第46回研究会）	〃
図書館団体活動	日本医学図書館協会 国際交流委員長	佐藤晋巨
	日本医学図書館協会 第20回医学図書館員基礎研修会実行委員長	松本直子
	日本図書館協会 健康情報委員会	佐藤晋巨

表 16 受入資料

		和	洋	合計	
図書 (冊)	購入	図書館	838	81	919
		研究室	26	16	42
		研究センター	253	20	273
		教育共通	1	-	1
		助成金等	-	-	-
		製本雑誌	30	-	30

	寄贈	図書館	347	13	360
		研究室	9	-	9
		研究センター	33	-	33
		助成金等	-	-	-
合計		1,537	130	1,667	
視聴覚資料 (巻)	購入	図書館	38	-	38
		研究室	-	-	-
		研究センター	2	-	2
		教育共通	10	-	10
	助成金等	-	-	-	
	寄贈	図書館	33	-	33
		研究室	1	-	1
		研究センター	-	-	-
助成金等		2	-	2	
合計		86	-	86	
電子図書 (点)	購入	図書館	56	26	82
		研究センター	-	3	3
	合計		56	29	85
逐次刊行物 (誌)	全タイトル		708	122	830
	新規		7	2	増減
	中止		3	-	6
購読電子ジャーナル (誌)			887	1,178	2,065
提供電子ジャーナル (誌)			13,842		

表17 見計らい選書会 実施状況

日時： 2013年11月12日(火) 13:00~14日(木) 12:00

(入場できる時間： 10:00~18:00)

場所： 本館 教室

入場者数： 32人 (教員：26人、学生：6人)

(12日：7人 13日：18人 14日：7人)

購入図書	352冊	1,948,352円
------	------	------------

表18 除籍資料 (大学全体)

	和	洋	合計(冊)
図書	491	60	551
製本雑誌	0	786	786
計	491	846	1,337

表19 所蔵資料総数 (大学全体)

2014年3月31日現在

	和	洋	合計
図書(冊)	59,329	11,162	70,491
製本雑誌(冊)	5,574	4,341	9,915
視聴覚資料(巻)	1,533	106	1,639
電子図書(点)	94	36	130
計	66,530	15,645	82,175

表 20 購読雑誌／電子ジャーナルの変更（2014年1月より）

新規に購読が決まったもの

タイトル	出版者	頻度	
医学哲学医学倫理	日本哲学医学倫理学会	年刊	冊子体
臨床死生学	日本臨床死生学会	年刊	冊子体
日本公衆衛生看護学会誌	日本公衆衛生看護学会	年2回	冊子体

購読の中止が決まったもの（廃刊、休刊）

タイトル	出版者	発行頻度	
総合看護	現代社	季刊	冊子体
臨床医学	へるす出版	月刊	冊子体

表 21 データベースの契約

	タイトル	ベンダー	同時アクセス数
1	CiNii	国立情報学研究所	無制限
2	医中誌 web	医学中央雑誌刊行会	8
3	間蔵	朝日新聞社	1
4	MAGAZINEPLUS	日外アソシエーツ	1
5	最新看護索引 web	凸版印刷	10
6	CINAHL Plus with Full text	EBSCO	4
7	PsycINFO	〃	無制限
8	SocINDEX	〃	無制限
9	MEDLINE	〃（特約）	無制限
10	The Cochrane Library	Wiley InterScience	無制限
11	Nursing Allied Healthcare Source	ProQuest	無制限
12	Clinical Evidence	BMJ	無制限
13	Maternity and Infant Care	OVID	1
14	Medline Nursing Database	〃	1

表 22 その他、リソース・アプリケーションの契約

	タイトル（機能）	ベンダー	同時アクセス数
1	AtoZ、LinkSource（リンクリゾルバー）	EBSCO	無制限
2	RefWorks（文献整理ソフト）	ProQuest	無制限

表 23 リポジトリへの登録

コンテンツの種類	一次情報 (件)	二次情報 (件)
学術雑誌論文	405	405
学位論文	3	738
紀要論文	555	555
研究報告書	129	129
その他	30	8,196
計	1,122	10,023

表 24 図書館資料 決算額

(円)

図 書	製本雑誌	視聴覚資料	電子図書	逐次刊行物	電子ジャーナル	データベース・リソース他
3,621,465	68,514	844,535	1,357,338	4,803,081	8,404,130	5,973,016

表 25 図書館委員会 議事内容

日 時	作業内容
4月9日(火)	蔵書点検報告、2012年度年報、2013年度図書館予定、2013年度委員会計画、出張報告、看護ネット報告
5月7日(火)	2012年度図書館活動報告、情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、夜間における危機対応マニュアル(案)、大学史編纂・資料室の資料保管棚のブラウジングスペースへの設置について、出張報告
6月4日(火)	情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、電子化に伴う書架の再編成：廃棄雑誌について、認定教育課程研修生の図書館夜間利用について、教職員向けLibrary Pocket Guide更新、図書館実習生受入、出張報告
7月2日(火)	電子化に伴う書架の再編成：廃棄雑誌について、情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり、資料費執行状況報告(4月～6月)、学生図書委員会、図書館実習生受入、出張報告、看護ネット報告
9月17日(火)	2014年度新規事業計画進捗状況、学習空間の利用、学習支援サービスへのニーズ調査インタビュー実施報告、出張報告、看護ネット報告
10月21日(月)	2014年度事業計画(案)、2014年新規購読雑誌検討、資料費執行状況・執行予定状況報告、図書館実習生受入報告、出張報告
11月5日(月)	2014年新規購読雑誌検討、2014年度図書館運営費予算案、2014年度事業計画提出、見計らい選書会の実施、看護ネット報告
12月10日(火)	見計らい選書会購入図書、「電子図書館システム登録申請書(学位論文)」の改訂、学生図書委員会からの要望への対応、図書館連絡会議 報告、看護ネット報告
1月14日(火)	学習支援サービス アンケート調査、「聖路加国際大学図書館利用細則」改定、見計らい選書会購入図書、24時間開館への取り組み、看護ネット報告
2月10日(火)	図書館サービスの一体化から再構築へ、学習支援サービス アンケート調査、看護ネット報告
3月18日(火)	学習支援サービス アンケート調査結果、統合後にアクセスできる電子リソース、24時間開館の実施について、法人一体化に伴う規程類の改廃、聖路加看護大学図書委員会細則(改定)、聖路加国際大学学術情報リポジトリワーキンググループ内規(新設)、聖路加国際病院医学図書館と聖路加看護大学図書館における協力細則(廃止)、年報

表 26 学生図書委員会

日 時	内 容
4月24日 (水)	委員紹介、委員会日程・司会（書記）担当の検討
5月15日 (水)	活動内容検討
6月19日 (水)	推薦図書アンケートについて・館内水分摂取について検討
7月10日 (水)	推薦図書アンケートの実施方法の検討、館内水分摂取希望調査報告
10月23日 (水)	推薦図書アンケートの公開方法・資料利用マナーの呼びかけについて検討
11月13日 (水)	推薦図書アンケート公開書式について検討
12月11日 (水)	推薦図書アンケート掲示・配信時期について検討、活動総括

(2)大学史編纂・資料室／委員会

1. 役割・職務

大学史編纂・資料室委員会規程より

- 1) 本学に関連した史資料の収集・整理・保管
- 2) 収集史資料の公開・展示
- 3) 調査・研究および成果の発表
- 4) 自校史教育及び学習への支援
- 5) その他（1）～（4）に必要な事項

2. 活動内容

1) 課題の取組

①他部署で管理されていた歴史的資料を確認し、30箱が移管されることとなった。緊急に保管場所を確保する必要が生じたため、暫定的措置として文書保管設備を2014年度に設置することとなった。地下一階アートルーム倉庫に保管されていた看護物品にラベルを付与し、資料として登録した。②史資料の開示に関する規程は病院アーカイブズとの組織統合を検討する過程で整備することとなり、2013年度は作成しないこととなった。③ブックレット2号「公衆衛生看護のパイオニアとしての聖路加（仮）」の制作が進行中であり、2014年度中の刊行を目指している。④100周年事業委員会に参加し、100周年史の制作費や臨時人員の確保、執筆・編集の方向性確認等を行った。編集担当については病院との組織統合を経て再検討される見通し。⑤外国人居留地研究会全国大会の運営を行った。病院と共同して聖路加としての展示パネル・プログラム掲載原稿を作成した。⑥卒業生への呼びかけとして、同窓会総会・クラス委員連絡会の場で資料収集の協力を依頼した。また

卒業生の訃報に際し、同窓会と連携して遺族に対する資料寄贈の依頼状送付の体制を整えた。高橋シュン先生のご遺族より、ナイチンゲール記章等の資料寄贈があった。⑦聖路加国際病院のアーカイブズと法人一体化のためのアーカイブズワーキンググループを組織し、2014年度以降の協力体制について検討を進めた。

2) 通常の活動（「4. 資料、データ」参照）

3. 課題

- 1) 病院と大学のアーカイブズ業務の統合
- 2) 移管文書の受入体制と保管場所について新法人内における体制整備
- 3) ブックレット2号の刊行
- 4) ブックレット「高橋シュンと聖路加(仮題)」の刊行
- 5) 創立100周年史の業者・執筆担当決定、年表作成、資料収集の継続
- 6) 史資料の開示に関する規程整備
- 7) 史資料の目録公開体制検討

4. 資料・データ

1) 資料目録件数

2013年度より写真の遡及登録作業を開始し、アルバムから剥離して散逸の危険が高いものから優先して整理を進めた。

表1 入手経緯別 資料目録件数

	寄贈	貸与	購入	移管	合計
2013年度登録	2,627	444	0	192	3,263

表2 分類別 資料目録件数

	2013 年度登録
大学刊行物	132
写真	2,614
図書・雑誌・新聞	87
冊子	114
その他印刷物	86
書簡・葉書	34
モノ	110
視聴覚資料	33
事務文書	49
地図・図面	1
その他	3
合計	3,263

2) 卒業生インタビューの収集

【グループ/個人インタビュー】

- 公衆衛生元教員：(12月2日)
- 短大専攻科1回生：(12月9日)
- 聖路加国際病院公衆衛生看護部元職員：(1月10日)

【資料収集・貸借に伴う聞き取り】

- 河合智恵子(1939年卒) (11月8日)

3) 展示室企画

【写真展示】

- 「清里における農村実習」 5月14日～9月19日 (小野)
- 「Super Ladies in St.Luke's」 9月21日～1月1日 (山田、直井)
- 「Class of 2014 & 学士15回生 (学生展示)」 1月18日～2013年度まで展示中

【ケース展示】

- 「校章」 5月31日～10月2日 (佐居)
- 「看護に生きた人、高橋シュン先生をしのんで」 10月3日～2014年度まで展示中 (小黑、新沼)

4) 調査・研究および成果の発表

- 「聖路加看護大学のあゆみ改訂版」刊行 (12月20日)
- 第27回日本看護歴史学会理事会セッション「戦争と看護」(8月31日 渡部)
- 第27回日本看護歴史学会ポスター発表：「聖路加女子専門学校創成期の看護教育」(8月31日 大

橋)

- 資料室 HP 「Lukapedia」 継続
 - Global Health Seminar パネル展示 (本学創成期 外国人教員の紹介) (5月18日)
 - 外国人居留地研究会 パネル展示、プログラム掲載「聖路加国際病院と聖路加看護大学のはじまり」
 - 聖路加国際病院 田環講座「占領期、米国陸軍病院となった聖ルカ」(12月12日 渡部)
 - 国文学研究資料館 紀要アーカイブズ 研究篇10号「大学アーカイブズにおけるオーラルヒストリー 収集手法－聖路加看護大学の事例からの考察－」(3月 新沼)
- 5) 自校史教育及び学習・研究への支援
- 教育支援
 - (1) ブックレット1号「聖路加看護大学のあゆみ」を新入生へ配布
 - (2) 「自校学習」開講 (2013年4月、1年生前期 選択)
 - (3) 学園祭参加 (「歴史展示室クイズ」「歴史パネル展示」、同窓会共同)
 - (4) Nishida Kathleen 氏調査相談
- 6) その他
- 他組織機関との連携
 - (1) 全国大学史資料協議会における情報共有
 - (2) 外国人居留地研究会全国大会開催に協力 (11月2, 3日)
 - (3) 東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会参加 ※会場提供 (12月15日)
 - (4) 聖公会刊行冊子への原稿提供
 - 広報等学内との協力
 - (1) 高橋シュン先生の追悼式典における配布冊子、スライドショー制作。
 - (2) 広報誌「Lu・Bre」Vol.1へ寄稿「ミッションスクール発祥の地 明石町」
 - (3) 「学園ニュース」No.303～305へコラム掲載
 - (4) 大学案内への掲載写真提供
 - (5) ブックレット「高橋シュンと聖路加(仮題)」制作を請け負い (2014年7月刊行予定)
 - (6) 神奈川県聖路加同窓会 講演「聖路加看護大学のあゆみ」(9月7日 渡部)

4 看護実践開発研究センター

(1)センター運営委員会

1. 役割・職務（規程がある場合はその規程の名称を入れる。4月に配付した委員会の一覧表を参照）

看護実践開発研究センター運営委員会規定第3条に基づき、センター運営の基本方針に関する事、事業計画に関する事など、センター運営に関して審議した。

2. 活動内容（上記1に沿って記述）

11回の運営委員会を開催した。今年度研究センター運営上の論点は以下の通りであった。

- 1) 研究センター10周年記念講演会は、大学創立記念行事の中で開催した。また、10周年記念報告書は、2014年5月に発刊予定とした。
- 2) センター構成員として、「特別研究員」を新たに設けた。（聖路加看護大学看護実践開発研究センター構成員内規第5条）

3) 2号館（3, 4階のロッカー、研究室）の管理規則、利用規則についての検討を行った。

4) 聖路加国際病院との一体化における病院の国際部、研究管理部、教育研修部との組織改組の検討を行った。

5) 一体化に伴う組織改編により、福島県災害支援プロジェクトの運営について検討を行った。今後は、総務課が担当部署となることが決定した。

6) 平成25年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発」（研究代表者 菱沼典子）が採択されセンターを中心に研究を開始した。

3. 課題

- 1) 改組による新たな組織づくり。
- 2) WHO コラボレーティングセンターの再委嘱の準備。

4. 資料・データ

表1 看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

回数	開催日	議 題
第1回	4月9日	2013年度の組織と会議スケジュールの検討 研究センター10周年記念行事について 研究センター運営に係る検討事項について 2014年度以降の研究センター事業について 研究センター専任教員の業務について 2013年度センター事業 事業主について 客員研究員・博士研究員・学生の実習受け入れ等の承認
第2回	5月9日	特別研究員について 施設管理について 2013年度研究センター重点目標について 客員研究員の承認 センター10周年記念誌について ぼるかルームの椅子購入についての再検討
第3回	6月11日	研究センター内規における特別研究員の要件等の検討について認定看護師教育課程研修生の2Fメディアルームの利用時間延長について 専任研究員の部屋のカギの管理について 4階3階の棚等の使用に関するルールについて 客員研究員の承認 研究員申請書新フォーマット案について るかなびマイレージの使用ルールの確認
第4回	7月9日	研究センター開設10周年記念講演企画書(案) について 特別研究員の件 「るかなびマイレージ」について 3F4Fロッカー及びキャビネット等の管理規則、利用についての各事業主の意見 4F研究オフィス管理規則(案) について

第5回	9月10日	研究センター開設10周年記念講演企画書(案) について センター事業来訪者、受講者対応に関する情報共有について 3. 特別研究員について 客員研究員申請について 防災訓練(10/3)について 大学基準協会自己評価について 整理係: 3F交流ラウンジ・4F講義室1・4F研究オフィス1の利用ルール案について 博士・客員研究員のPCの入れ替えについて
第6回	10月15日	2014年度研究センター事業の申請について 整理係: 3F交流ラウンジ・4F講義室1・4F研究オフィス1の利用ルール案について 聖路加市民アカデミーの当日の役割について センター10周年記念行事について
第7回	11月12日	2014年度研究センター事業の申請について 研究センター10周年記念講演会プログラムについて 研究センター10周年記念報告書について 病院との一体化に向けた確認事項 2014年度研究センター事業申請の修正点について(市民アカデミー等) 広報について(センター催し物案内の取扱いについて等)
第8回	12月10日	前回継続審議とされた2014年度研究センター事業の申請について 提出期限後の2014年度研究センター事業申請について 各WG(国際、研究管理、教育研修)の報告と調整について
第9回	1月28日	なし(報告事項のみ)
第10回	2月25日	なし(報告事項のみ)
第11回	3月11日	各種規程の改正について 研修(実習・研究)受け入れに関する申請の承認について

表2-1 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧(文部科学省科学研究費助成事業)

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
柳井 晴夫	代表	臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入	基盤研究(A)(一般)
飯岡由紀子	代表	女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価	基盤研究(B)(一般)
小野 智美	代表	日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究	基盤研究(B)(一般)
梶井 文子	代表	在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証	基盤研究(B)(一般)
大森 純子	代表	新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
中山 和弘	代表	ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツの開発	基盤研究(B)(一般)
堀内 成子	代表	晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果	基盤研究(B)(一般)
及川 郁子	代表	小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
麻原きよみ	代表	「公衆衛生看護の倫理」教育のモデル構築と検証:カリキュラム・教育方法・教材の開発	基盤研究(B)(一般)
田代 順子	代表	高度実践看護師の臨床判断力強化支援のためのウェブアシスト学習プログラム開発・評価	基盤研究(B)(一般)
有森 直子	代表	女性のリプロダクション健康課題に対する意思決定支援の評価研究	基盤研究(B)(一般)
大久保暢子	代表	脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価	基盤研究(C)(一般)
長松 康子	代表	困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価	基盤研究(C)(一般)
蛭田 明子	代表	周産期喪失後の危機的状況を夫婦で歩み新たな家族をつくる物語	基盤研究(C)(一般)
佐居 由美	代表	看護実践における「安楽」の理論家～ミックスメソッドデザインによる検証～	基盤研究(C)(一般)

菱沼 典子	代表	看護技術の構成要素と効果－看護技術の確立に向けて	基盤研究(C)(一般)
小野若菜子	代表	訪問看護師を対象としたグループケア教育プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)
吉田 千文	代表	地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ	基盤研究(C)(一般)
堀内 成子	代表	タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価	挑戦的萌芽研究
高橋 恵子	代表	看護師の「市民目線に立ったケア」を育むリフレクションプログラムの開発	挑戦的萌芽研究
片岡弥恵子	代表	乳がん合併妊産婦の看護ケアスタンダードの構築	挑戦的萌芽研究
亀井 智子	代表	地域高齢者のための包括的転倒予防 SAFETY on!プログラムの開発と効果の検証	挑戦的萌芽研究
萱間 真美	代表	認知症の周辺症状(BPSD)による精神病床入院から地域移行への看護ケアモデル開発	挑戦的萌芽研究
小林 真朝	代表	生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価	若手研究(B)
大橋久美子	代表	看護師の行うモーニングケアの実態調査:術後回復を促すモーニングケアの導入にむけて	若手研究(B)
角田 秋	代表	訪問看護師による精神疾患を有する人への電話相談の効果評価	若手研究(B)
鶴若 麻理	代表	看護学士課程における体系的な新しい生命倫理教育の創出:アジア比較研究	若手研究(B)
伊東美奈子	代表	既卒採用看護師の職場適応促進策-日本版メンターシッププログラムの構築に向けて-	若手研究(B)
木戸 芳史	代表	精神疾患の未受診者や受療中断者等へのアウトリーチ支援が多職種チームに与える影響	若手研究(B)
新福 洋子	代表	汎用性のある紙芝居教材を用いたタンザニア農村部の妊娠期教育プログラム開発と評価	研究活動サポート支援
飯田真理子	代表	多言語による簡易版“女性を中心としたケア-妊娠期尺度”の開発	研究活動サポート支援
千吉良綾子	代表	早期認知機能低下高齢者の包括的意思決定支援システムに関する基礎的調査研究	研究活動サポート支援
三森 寧子	代表	現代の多様な子ども達に向き合う養護教諭の養成教育とカリキュラムに関する認識調査	研究活動サポート支援
松谷美和子	代表	看護学士課程におけるアクティブラーニング・プログラムによる看護実践能力の開発	基盤研究(B)(一般)
林 直子	代表	女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する選択を支える看護教育プログラムの開発	基盤研究(B)(一般)
片岡弥恵子	代表	妊娠期DVの育児期に及ぼす影響の探索と構造化:前向きコホート研究	基盤研究(B)(一般)
亀井 智子	代表	慢性疾患在宅患者の主体的療養を支援するテレナーシング方法と看護プロトコルの開発	基盤研究(B)(一般)
森 明子	代表	月経異常の理解とセルフケアを促進する青年期女子教育プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)
五十嵐ゆかり	代表	多文化共生の感受性を育む周産期看護者育成プログラムの実施と評価	基盤研究(C)(一般)
平林 優子	代表	医療的ケアを必要とする子どもの療養行動獲得支援の評価と普及に向けた研究	基盤研究(C)(一般)
中山 和弘	代表	患者がエビデンスとナラティブをつないで意思決定できるディジジョン・エイドの開発	挑戦的萌芽研究
飯岡由紀子	代表	ホルモン治療中の乳がん女性のためのセルフトリートメント支援システムの評価	挑戦的萌芽研究
高田 幸江	代表	生体腎移植ドナーの継続的看護支援システム構築にむけた研究	挑戦的萌芽研究
田代 順子	代表	インドネシア農村部での予防・健康増進転換への協働的看護活動モデル開発	挑戦的萌芽研究
倉岡有美子	代表	胃瘻造設を検討する患者の家族の意思決定支援ガイドの普及と評価	若手研究(B)
三浦友理子	代表	看護系大学学生の自律的学習力の開発に向けた基盤的研究	研究活動サポート支援
加藤木真史	代表	術後の早期離床を実現する看護介入プログラム開発に向けた基礎的研究	研究活動サポート支援
吉田 千文	分担	ケアマネージャーの経験するモラルディストレスの解明と支援プログラムの開発	基盤研究(C)(一般)

平林 優子	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発	基盤研究 (B) (一般)
保坂 隆	分担	麻酔科医のメンタルヘルスの包括的改善策の検討	基盤研究 (C) (一般)
佐居 由美	分担	気持ちよさをもたらす看護ケア理論の創成	基盤研究 (B) (一般)
大橋久美子	分担	気持ちよさをもたらす看護ケア理論の創成	基盤研究 (B) (一般)
角田 秋	分担	児童・思春期精神科病棟における看護実践能力向上のための学習システムの構築	基盤研究 (C) (一般)
及川 郁子	分担	子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成	基盤研究 (B) (一般)
中山 和弘	分担	長期療養施設における慢性通ケアの質向上のための教育プログラム開発	基盤研究 (B) (一般)
草川 功	分担	被災者の記憶に残る地域の伝統的生活文化の認識と再生・継承に関する研究	基盤研究 (C) (一般)
大久保暢子	分担	特定看護師へのクラウド型 Advanced フィジカルアセスメント教育ツールの開発	基盤研究 (C) (一般)
小野 智美	分担	プレパレーションの普及ーモバイル e ラーニングを応用した実践と評価	基盤研究 (B) (一般)
山田 雅子	分担	「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする終末期看護モデルの構築	基盤研究 (B) (一般)
鶴若 麻理	分担	高齢者による医療の選択と意思決定を支える体制の構築に関する研究	基盤研究 (B) (一般)
中山 和弘	分担	全国代表サンプルによるストレス対処力 SOC を規定する社会的要因に関する実証研究	基盤研究 (B) (一般)
林 直子	分担	オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進	基盤研究 (B) (一般)

表 2-2 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧 (厚生労働科学研究費補助金)

氏名	代表・分担	研究テーマ	事業名
萱間 真美	代表	アウトリーチ (訪問支援) に関する研究	障害者対策総合研究事業
萱間 真美	分担	精神障害者の重症度判定及び重症患者の治療体制等に関する研究	障害者対策総合研究事業
萱間 真美	分担	精神疾患の医療計画と効果的な医療連携体制構築の推進に関する研究	障害者対策総合研究事業
山田 雅子	代表	診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究	政策科学推進研究事業
井部 俊子	代表	社会保障と税の一体改革に向けた新たな看護職員確保対策に関する研究	厚生労働特別研究事業
亀井 智子	分担	認知機能低下高齢者への自立支援機器を用いた地域包括的システムの開発と評価	認知症対策総合研究事業
亀井 智子	分担	高齢者在宅医療に関する多職種協働の阻害要因を克服する克服する教育システムの構築に関する研究	長寿科学総合研究事業
及川 郁子	分担	慢性疾患に罹患している児の社会生活支援ならびに療養生活支援に関する実態調査およびそれら施策の充実にに関する研究	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
堀内 成子	分担	母子保健に関する国際的動向及び情報発信に関する研究	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

表2-3 専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

氏名	代表・分担	研究テーマ	研究種目
麻原きよみ	代表	保健師による実地的な放射線防護文化のモデル開発・普及と検証：放射線防護専門家との協働によるアクションリサーチ	環境省 平成25年度原子力災害影響調査等事業「放射線の健康影響に係る研究調査事業」
及川 郁子	代表	中央区ママとベビーの安心サポートシステム訪問等委託	東京都中央区委託事業
堀内 成子	代表	働く女性のためのプレママ教室	東京都中央区委託事業
堀内 成子	代表	タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成	アジア・アフリカ学術基盤形成事業
菱沼 典子	代表	地域住民のヘルス・リテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

(2) People-Centered Care (PCC) 実践開発室

1. 役割

PCC 実践開発部門では看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care にもとづく新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践提供を通じて、市民主導型看護ケア（PCC）のあり方を探求する。

- 1) 専任・兼任研究員が事業主となり、さまざまな世代にある人々の多様な健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に PCC 看護実践を提供するとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある PCC を開発・創生する。
- 2) 各事業主が学部生、大学院生、専門職、他大学の教員等を対象として、看護の実践開発を理解する等の目的で教育の機会、および場として各事業を提供する。

2. 活動内容

1) 事業の推進

看護ケア部門の各事業は、年度当初の計画のもとに計画的に事業を実施した。

開催回数、参加者数は表1の通り、年間4,787人の市民を対象に事業が展開された。

2) PCC 実践開発室事業主ミーティング

本部門に属する研究事業全体の内容や課題、および対象者に安全に事業を実施するための方法を話し合うため、事業主によるミーティングを年間3回開催

した。

3) Quality control

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造－実践過程－成果」の各要因から事業の質評価を行っている。各事業に参加した市民によるプログラム参加満足度を0～10の VAS (visual analog scale) により評価した。表に示したように、どの事業も参加者の満足度は高かった。また、安全に看護実践を提供するために、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定し、それにもとづく安全対策を実施して各事業を展開した。事業開催中のインシデントの報告はなかった。

3. 課題

今年度も市民との協働により PCC 実践開発室の事業を推進することができた。PCC を研究開発する上で、市民と研究者相互のコミュニケーションを促進すること、また参加者の安全管理を行うことは重要である。今年度はインシデントを生じることなく事業を実施できた。

2003年度に採択された文部科学省21世紀 COE プログラムのスタートと同時に開設された研究センターも10周年を迎え、多くの事業はこれまで継続的に企画・運営されてきた。ポスト COE 以降の本事業を支え続けていただいた聖路加-テルモ共同事業は今年度で終了することとなった。今後は各事業の採算性も検討して運営し、事業間の情報交換等を通じた PCC の理論化を推進していきたい。

4. 資料・データ

表1 PCC 実践開発部門が実施した事業のまとめ

事業名	事業主	構造要因 会場場所	プロセス要因			アウトカム		
			事業主以外の 学内従事者	学外従事者	プログラム	開催 回数	年 間 参加者数	参加者 満足度 ^a
赤ちゃんがやってくる	片岡弥恵子	聖路加産科クリニック	堀内成子	土屋麻由美	・新しく子どもが生まれる家族、特に兄姉になる子どもたちに対して、「出産とはどのようなものか?」、「あかちゃんとは?」などについて学習し、新しく家族を迎えることへの準備を行う。 ・兄姉になる子どもたちが、新しい生命の誕生を通じて、自分の生・性を大切にすることができるよう働きかける。 ・母親・父親、新しく兄姉になる子どもたちに、今後性に関する話ができるように支援する。	8回	248名 85家族	9.6
ルカ子母乳育児相談室	堀内成子	聖路加産科クリニック内 母乳相談室/自宅訪問	永森久美子	小林紀子	個別の母乳育児相談	来所： 月16件 訪問： 76件	90組 180名	10
天使の保護者ルカの会；グリーンファウンセリング	堀内成子	2号館5階ミーティングルーム1	—	堀内祥子 石井慶子	① 流産・死産・新生児期のあらゆる理由で児を亡くした母親・父親・夫婦・家族を対象にカウンセリングを通して精神的ケアを行う。グループから個人カウンセリングへの速やかな連携・継続的対応により、体験者の心理的不安を軽減する。 ② 周産期の死別に立ち会う看護職のためのグリーンサポートを行い、周産期のケアの心理的負担を軽減する。 方法：グリーンファウンセリング面接	21件	26名	9.2
天使の保護者ルカの会	蛭田明子	聖路加看護大学 2号館 3階交流ラウンジ	堀内成子	太田尚子 石井慶子 北園真希 勝又里織 星野浩一 堀内祥子 今村美代子	体験者同士のお話会 8回 手作りの会 2回（フラワーアレンジメント、エンジェルキルトを各1回）	10回	77名	9.0
乳がん女性のためのサポートプログラム	細田志衣	2号館/本館	大坂和可子、川端愛（大学院） 高橋恵子 大橋久美子 学部生	金井久子（聖路加国際病院） 矢ヶ崎香、小松浩子（慶應義塾大学）	乳がんを体験した女性同士が集い自由に話し合う場としてサポートグループを7回、乳がんに関する学習会を2回（乳がんサバイバーのためのリラクゼーション&ストレッチヨガ）を開催した。	10回	226名	8.6
リンパ浮腫ケアステーション	前田邦枝	2号館3階相談室	細田志衣	矢形寛 井上貴久美 中曽根朋子 金井久子 芳賀千織 細川恵子 大畑美里（聖路加国際病院） 佐藤佳代子 米原恵理子 恒藤靖子 加藤由佳（後藤	・がん看護を専門とする看護師、あん摩マッサージ指圧師、乳がん専門医がチームを組織し、がん体験者へのリンパ浮腫の予防、早期発見に関する教育、ケアの提供、悪化予防のための専門医への連携とコンサルテーションなど、統合的なケアを実施する。 ・医療職種対象の勉強会開催を通じ、現在リンパ浮腫ケアステーションで行われている活動	・研修会1回 ・グループ指導10回 ・個人施術30回	140名	9.5

				学園)	内容を公示するとともに、受講生のリンパ浮腫ケアについての基礎知識習得と臨床現場でのリンパ浮腫に対してのケア環境向上や看護スキルの活性化を目指す。			
聖路加健康ナビスポット： るかなび	有森直子	2号館1階 ぼるかるーム	菱沼典子 山田雅子 高橋恵子 佐藤晋巨 高木裕也 瀬戸山陽子 牛山真佐子 藤田淳子 るかなびボランティア 47名(専門職ボランティア21名 市民ボランティア26名)	テルモ株式会社 チラシ掲載協力施設：聖路加国際病院、中央区役所、中央区立図書館、中央区桜川敬老館、中央区近隣住民・施設(商店街、銀行、図書館等)	1) 一般市民向け ・健康相談、健康測定(骨密度、体脂肪、身長・体重、血圧など) ・情報閲覧サービス提供 ・ランチタイムミニ講座&ミニコンサート ・CHADO(ティーサロン) ・中央区健康福祉祭りへの参加 ・白楊祭への参加 2) 市民・専門職ボランティア向け ・ボランティアミーティング ・ボランティア全体会 ・ボランティア勉強会 ・ブックリストミーティング	1) 市民向け活動：総計231回 2) ボランティア向け活動：総計23回	1) 計1276名 ・健康相談利用者計693名 ・ランチタイムミニ健康講座&ミニコンサート参加者計433名 ・CHADO150名	9.1
ダウン症候群のよりよい養育環境検討会—中央区—「ポルカの会」	有森直子	聖路加看護大学2号館 看護実践開発研究センター	有森直子 有田美和 大浜あつ子 聖路加看護大学大学院生 聖路加看護大学学部生	(聖路加国際病院看護師モンテッソーリ北尾クラス)北尾都先生 安藤麻衣子 山崎智子(音楽家) 川島広江(助産師) 高山恭子(美術講師) 末崎陽子(フットケア)	4月「体操」 5月「音楽」 6月「フットケア」 7月「動作法」 9月「美術」 10月「性教育講演会」 11月「音楽」 1月「モンテッソーリ教育」 2月「音楽」	9回	71家族 142名・スタッフ(ボランティア含む) 48名	9.6
子どもの健康、知ろう、考えよう～子どもの健康を家族と考える学習・交流会	及川郁子	聖路加看護大学2号館 交流ラウンジ 多目的ホール 聖路加看護大学本館 601・602教室	平林優子 小野智美 眞鍋裕紀子 三森寧子	西野理英 福本久美子 緒方綾乃 田村朱里 常山由美子 一之瀬くに子 藤澤真菜美 石川知恵子 合田直子	6月：虫歯予防は、ここまでのできる 7月：子どもの事故と応急処置・心肺蘇生法 10月：学校・保育園での食物アレルギー 11月：予防接種で防げる病気 1月：気になる子どもへの支援	5回	199名	8.2
「自分のからだを知ろう」おはなし会	菱沼典子	2号館 世田谷古民家 mamas 杉並区中央図書館	岩辺京子 白木和夫 大久保暢子 三森寧子 松谷美和子 佐居由美	村松純子 後藤桂子 中山久子 瀬戸山陽子 世良喜子 北沢克己 石井祐子	1シリーズ3回とし、以下の紙芝居を各20分×2本実施。 紙芝居のあと、その時の絵本を配布。 1回目 消化器系、筋骨格系 2回目 循環器系、生殖器系 3回目 泌尿器系、神経系 または、絵本からだドックンドックンの読み聞かせ。	6回	125名	9.3 (一部)
高齢者と家族へオンリーワンの「思い出帳(メモリーブック)」作りプロジェクト	千吉良綾子	2号館5階 ミーティングルーム、および対象者宅	山本由子(大学院) 亀井智子 梶井文子		幼少期、青春時代など毎回のテーマに沿った写真を持参してもらい人生を振り返る。セッションで語られた言葉や写真を用い、メモリーブックを作成する。	5回	10名	9.0

認知症の人の ご家族のため のリフレッシュ・プログラム	梶井文子	2号館ぼる かルーム	亀井智子 千吉良綾子	渡邊純子(看護師) NPO アロマテ ラピーボラン ティア協会 久松朋子(フラ ワーアレンジ メント)	認知症高齢者の介護者家族のため の認知症の理解や接し方の方法 等の教育的内容と、介護者間の 情報交換や心身の気分転換を 促すためのアクティビティ内容 を提供した。	8回	70名	9.6
多世代交流型 デイプログラム 聖路加和みの 会	亀井智子	2号館ぼる 地域散策ほ か	山本由子(大 学院) 渡邊麗子(大 学院) 糸井和佳(帝 京科学大学)	地域在住のボ ランティア 中央区書道連 盟 岡村大 NPO アロマセ ラピーサポー トセンター 大 場奈緒	都市部在住の小中学生と高齢者 の世代間交流を促進する。高齢 者世代から子ども世代への知恵 と文化の伝承、子ども世代の高 齢者理解を促進する。互惠の二 ーズを充足し、ヘルスプロモー ション、およびソーシャルキャ ピタルをめざす看護ケアの提 供。	30回	614名	高齢者 9.3 小学生 8.0
転倒骨折予防 実践講座 SAFETY on !	亀井智子	聖路加看護 大学地下ア ーツルーム	梶井文子 千吉良綾子 山本由子(大 学院) 渡邊麗子(大 学院) 糸井和佳(帝 京科学大学)	新野直明(桜美 林大学大学院) 入江由香子(高 崎商科大学短 大部) 杉本知子(千葉 県立保健科学 大学)	地域在住高齢者の転倒、および それに伴うけがの予防のため に、心身機能の測定、各種ミニ 講義、運動プログラム、転倒予 防啓発教材を使用した多因子介 入プログラムを提供。	6回	270名	9.2
在宅酸素療法 を行う方への テレナーシング	亀井智子	利用者宅	蝶名林直彦 (聖路加国 際病院)	-	慢性閉塞性肺疾患で在宅酸素療 法を行う方を対象として、ネッ ト端末を貸与して心身の状態を 遠隔モニタリング、およびトリ アージし、テレメンタリング、 および看護・保健指導を行い、 急性増悪を防いで安定療養に資 する。	-	-	-
はじめの一歩 の会	山田雅子	2号館5階ミ ーティング ルーム	麻原きよみ	篠原良子 勝田高之 木村紀子 他	ケアマネジャーからの紹介を受 け、在宅療養者ヘインフォー マルな生活支援サービスを届ける 活動を実施、家で死ぬるまじづ くりについて「語る会」を年1回 開催	11回	170名	8.6
ルカ子・サロ ン	森明子	ポルカルー ム	川元美里、 崎山貴代(大 学院)	不定期で不妊 症看護認定看 護師が従事(本 年は1名のみ)	当事者間のおしゃべり会を看護 職がサポートするもの。ミニ講 座を開催することもある。なか なか人に言えない不妊(妊娠) などリプロダクティブ・ヘルス の悩みを仲間と分かち合って精 神的負担を軽減する場と機会を 提供すること、正しい医学的知 識、医療・看護情報を提供す ることを目的とする。	10回	106名	回答者 全員が 「満足」 「ほぼ 満足」 と回答。
心臓リハビリ テーションヨ ガクラス	宇都宮明 美	聖路加国際 病院 トイ スラーホー ル	鈴木陽子	西裕太郎 笠井愛 岡村大介(聖路 加国際病院)	聖路加国際病院に外来通院中の 心臓リハビリテーションを終了 した心疾患患者を対象としたヨ ガクラス	51回	321名	9.2
聖路加市民ア カデミー	高橋恵子	本学本館ア リスC. メ モリアルホ ール	本学看護実 践開発研究 センター教 職員、 るかなび運 営メンバー、 るかなびボ ランティア、 本学学部生	テルモ株式会 社、 中央区近隣施 設	聖路加市民アカデミー 「自分 らしく生きるための選択」 特 別メッセージ日野原重明、講 演：木村利人(早稲田大学名誉 教授)、ミニコンサート：洪田 紀子、芦川侑美、高橋よしの	1回	318名	9.2

聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ	高橋恵子	本学2号館	本学看護実践開発研究センター教職員、るかなび運営メンバー、るかなびボランティア、本学学部生	テルモ株式会社、中央区近隣施設	カレッジセミナー（全3回シリーズ）「知って学ぶ 自分のからだ」講師：上村昭博（聖路加メディカルセンター）、菱沼典子（本学基礎看護学教授）、西裕太郎（聖路加メディカルセンター）	3回	138名	9.1
聖路加看護大学 中央区連携講座 中央区区民カレッジ	高橋恵子	1. 聖路加看護大学2号館 2. 中央区築地教育会館	川元美里 有森直子 看護実践開発研究センター職員	中央区職員、梅田恵（緩和ケアパートナーズ）	1. 学びのコース 前期：「自分の体を知って、健康に！」 後期：「自分のからだを知って、健康な生活を！」 講師：島内憲夫、大久保菜穂子、大木麻梨子、花村睦 2. シニアコース 「今から考えよう 自分の最期の過ごし方」 講師：梅田恵（緩和ケアパートナーズ）、山田雅子（本学）、桑田美代子（青梅慶友病院）、吉田千晴（中央区京橋おとしより相談センター）、宇都宮明美・八重ゆかり・高橋恵子・佐藤直子（本学）	1. 10回 2. 10回	計83 53名 30名	5段階 満足度 4.2

a: 参加者満足度は0～10の VAS による平均値

(3)キャリア開発支援室

1. 役割・職務

- 1) 少子高齢社会で生じている健康問題や社会の動向をグローバルに捉え、看護の視点からいち早く取り組み、科学的根拠を集積し、市民とのパートナーシップを取りながら、看護を提供する方法を開発研究することを目的とする。

4. 資料・データ

表1 キャリア開発支援室：ナーススキルアップ講座

講座名	開催数	受講者数
看護管理コンサルテーション	随時(予約制)	1
緩和ケアコンサルテーション	随時(予約制)	0
在宅看護コンサルテーション	随時(予約制)	1
退院調整看護師養成プログラムと活動支援	1 コース/年	49
精神看護事例検討会	4 回/年	81
がん看護事例検討会	2 回/年	2
英文献を読もう！パートⅠ～基礎編～	2 コース/年	8
英文献を読もう！パートⅡ～構文理解強化コース～	1 コース/年	4

2. 活動内容

- 1) 研究センターの目的を果たすために、主に看護職を対象にその知識・能力・態度の習得を目指した各種教育プログラムを企画・運営する。

*具体的プログラムの種類等については、資料に記す。

3. 課題

- 1) 認定看護師教育課程ががん化学療法看護コースの受験者数が減少している。今後の在り方について検討を要する。

不妊症看護認定看護師ポストコース	1回/年	68
がん化学療法看護認定看護師スキルアップセミナー	1回/年	99
訪問看護スキルアップセミナー	4回/年	49
聖路加看護大学・パラマウントベッド株式会社看護教育共同事業 クリティカルケア・シミュレーション教育プログラム SCC セミナー	9回/年	88
【新規】看護管理塾	10回/年	620
ELNEC-J 聖路加 ～すべてのナースのためのエンド・オブ・ライフ・ケア～	2クール/年	47
臨床疫学研究入門	5回/年	54
文献検索～準備体操～	3回/年	25
【新規】日野原重明先生指導下 ナースのための高級診察術	17回/年	1,145
合計		2,339

表2 キャリア開発支援室：認定看護管理者講習、認定看護師教育課程

教育課程	開講期間	受験者数	合格者数	受講者数	修了者数
ファーストレベル講習	8/19-9/20	94	94	89	89
不妊症看護コース	6/1-2/28	13	13	14 (1)	14
がん化学療法看護コース	6/1-2/28	22	21	21 (1)	21
訪問看護コース	6/1-2/28	25	25	26 (2)	26
計		60	59	61	59
合計		154	153	150	148

() 内は修了延期者の内数

(4)研究活動支援室

1. 役割・職務

- 1) 研究助成金情報の提供
- 2) 科研費の申請経理手続き
- 3) 研究コンサルテーション
- 4) 研究助成に関する選考

2. 活動内容

- 1) 上記の活動内容実績は表1参照
- 2) 上記 3) に関して、聖ルカ・ライフサイエンス研究所臨床疫学センターとの協働体制を実現した。

3. 課題

- 1) 科研費申請経理業務の効率化。
- 2) 研究コンサルテーションの役割を明確化するとともに、研究計画書の作成支援体制の構築を検討する。

4. 資料・データ

表1 研究支援部門活動実績

活動内容	件数	活動方法・手段等
(1) 研究助成金情報の提供	27件	学内メールによる通知
(2) 科研費の申請経理手続き	80件*	科研事務の諸ルールに基づく
(3) 研究コンサルテーション	86件	対面相談
(4) 研究助成に関する選考	0件	研究助成に関する選考委員会規定に基づく

* 文部科研：本年度交付47件+24年度繰越8件+他機関分担分16件=71件

(採択率：新規・継続96%、新規88%)

厚労科研：9件

(5)WHO PHC 看護開発協力センター

(WHO Collaborating Center for Nursing in Development in PHC)

1. 聖路加看護大学 WHO PHC 看護開発協力センターは、本学、看護実践開発研究センターに再委嘱され、第6期2年目の活動を開始した。

1) センター目標(Terms of Reference)

(1) People-Centered Health Care (WPROのグローバルポリシーフレームワーク)の看護モデルをPHCの価値に基づいて、評価し改善をしてゆき、ミレニアム開発目標の達成と、少子高齢社会での健康生成に貢献する。

(2) People-Centered Care における看護のリーダーシップを発揮することにより、協働する保健人材の力を最大限の活用と能力開発、および学際的上級実践者の教育と、実際のサービス提供によりWHOの目標の達成に貢献する。

(3) PHCにおける看護・助産教育と上級実践の推進のための研究とシステムの改善によりWHOの活動を支援する。

(4) グローバルな地区を超えて、グローバルパートナーとの協働により、ミレニアム開発目標の中の母子保健のさらなる改善に貢献する。

上記、看護開発協力センターの目標達成にむけ、(1)看護実践開発研究センターの活動(PCC開発研究)の情報を統括し、(2)WHOとの連携活動を行う。

2. 事務局活動内容

1) 2013年度研究活動: WHO WPRO への報告: 2012年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WPRO、WHO 本部へ年次報告書提出し、Web で公開準備中。

2) 2013年5月20日に、第25回 ICN 4年毎大会がオーストラリア・メルボルンで開催された。各センターの活動報告、事務局選挙についての経過報告がなされた。

3) 7月に次期事務局の電子選挙が実施され、8月にオーストラリアのシドニー工科大学と決定した。

1年間は、ブラジル・サンパウロ大学と一緒に事務局を務める。

4) 国内広報として日本看護協会出版会「看護」

WHONEWSに隔月に連載。Webで公開(備考1)。

5) 看護助産強化への教育を通しての国際保健への貢献:

① アジア・アフリカ 助産研究センター;

タンザニア、ムヒンビリ健康科学大学の助産修士課程(研究者育成コース)の設立協力は継続中である。大学内のコンセンサスを取り、ステークホルダーと調整をしたところ、タンザニア大学協議会(TCU)から教員不足について指摘があったため、本学助産学教員を客員教員として登録することで大学側と合意し、そのプロセスを踏んでいる。加えて、課程開始後の臨床指導者となるムヒンビリ国立病院の3名の助産師を招聘し、日本の教育・実践を学ぶ機会を提供した。代わりに、本学大学院生7名を派遣し、医療機関を視察、プレゼンテーションを行い、交流した。うち3名は修士論文/課題研究のテーマをタンザニアで選び、共同研究を遂行してまとめ、Webで公開(備考2)している。

② インドネシア、看護助産強化への協力:

・イスラム大学からの博士課程院生は、昨年度3月で2名が博士号を取得し、帰国、所属機関の教員として活動している。

・インドネシアにおける看護助産強化策として、地区のプログラム開発の不足の課題を受けて、今年度から、地域でのNCDsの予防・健康増進プログラムの開発のための、基礎的調査を、インドネシア、西ジャワ州で共同研究を壮年期の高血圧予防、学童の肥満予防を焦点に開始した。

3. 課題

1) 2014年度からの聖路加国際大学と組織改編後のWHO PHC 看護開発協力センターとしての活動システムの構築

2) グローバルヘルス特に、WHO・西太平洋地区(WPRO)での本センターの看護の貢献の仕方の開発 WPRO 看護・助産領域の新任アドバイザー、Dr. Gulin との関係の再構築

4. 資料データ

備考 1) 「看護」(日本看護協会出版会)

WHO NEWS 連載及び Web にて公開中

<http://www.slcn.ac.jp/who/whonews/>

	執筆者	テーマ	「看護」
2014年03月	亀井 智子	聖路加看護大学大学院におけるチームビルディング育成プログラム	第66巻 3号
2014年01月	梶井 文子	認知症の人の加須港介護者のためのリフレッシュ・プログラム	第66巻 1号
2013年11月	有森 直子	遺伝学的課題をもつ人々のためのコミュニティの創生	第65巻 13号
2013年09月	田代 順子	「WHO看護開発協力センター・グローバルネットワーク総会」報告	第65巻 11号
2013年07月	亀井 智子	都市部在住高齢者と子どもの世代間交流プログラム：世代間継承からソーシャルキャピタルへ	第65巻 9号
2013年05月	大畑 美里	乳がん医療を受ける女性が主人公となるために	第65巻 6号

(6) るかなび運営会議

1. 役割・職務

- 1) るかなび活動の計画を立案する。
- 2) るかなび運営に必要な企画・手段等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。
- 3) 看護実践開発研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

2. 活動内容

- 1) 毎月の運営会議また、協働するボランティアとのミーティング、全体会を開催し、るかなび運営に関する諸事を「実践活動(市民への健康支援サービス)」

「地域連携」「教育活動」「研究活動」の側面から検討し、その活動を推進した。

- 2) るかなび活動の継続に必要な資金確保として研究費を新たに獲得した。

3. 課題

- 1) 市民のヘルスリテラシー向上に寄与する研究的な取り組み
- 2) 市民のための図書館機能を持つ健康情報サービスの充実
- 3) People-Centered Care の学習の場としての発展

4. 資料・データ

2013 年度 るかなび活動の実績

るかなび事業	実施概要	人数など
実践活動(健康支援サーピス)		
健康相談・健康測定(骨密度・体脂肪・血圧)	207日/年	利用者総数 693名(うち骨密度測定者 515名)
ランチャタイムミニ講座・ミニコンサート	10回/年	参加総数433名
CHADO	11回/年	参加人数150名
ボランティアミーティング	7回/年	参加人数99名
るかなび全体会	1回/年	参加人数24名
ボランティア勉強会	8回/年	参加人数103名
闘病記ブックリストミーティング	7回/年	参加人数56名
教育活動		
PCC概論:コミュニケーション実習	1回/年	1名(学部1年生)
PCC概論:自分の生活と健康の調査(骨密度・身体計)	3回/年	98名(学部1年生/学士17回生)
認定看護師教育課程:演習	1回/年	26名(認定看護師教育課程(訪問看護コース)受講生)
認定看護師教育課程:実習	健康相談 (1回/年)	3名(認定看護師教育課程(訪問看護コース)受講生)
るかなび闘病記文庫利用		計313冊(学部生 153、院生 4、教職員 7、るかなびボランティア 149)
CNSである看護教員に実践活動の場を提供した		精神看護専門看護師、がん看護専門看護師、地域看護専門看護師、在宅看護専門看護師
地域連携・広報活動		
市民ボランティア	登録者総数	46名(市民ボランティア26名、専門職ボランティア20名)
中央区健康福祉祭への参加(10月27日):活動紹介展示、血	1回/年	血圧測定者85名 アンケート回収105
白楊祭への参加(11月9~10日):活動紹介展示、血圧測定な	2回/年	来訪者64名
中央区におけるるかなびポスターの掲示	掲示協力施設数	47施設(本年度新規 6施設)
研究活動		
私立大学戦略研究基盤形成支援事業「地域住民のヘルスリテラシー向上に寄与するアクティブ・ラーニング教材の開発」	研究代表者	菱沼典子
<活動報告>		
研究発表:年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価(第1報)一骨密度測定後の健康相談を利用した市民を対象に一研究発表:年代による特徴を反映させた市民向け骨粗鬆症予防のための教材における活用評価(第2報)一相談対応時に教材を活用した専門職を対象に一短報:るかなびが市民に提供しているランチャタイムミニ講座&ミニコンサートの活動評価一初回参加者のアンケート調査から一	菱沼典子、高橋恵子他(2013) 高橋恵子、菱沼典子他(2015) 佐藤直子、高橋恵子、有森直子他(2014)	第18回聖路加看護学会学術大会、 第18回聖路加看護学会学術大会、 聖路加看護大学紀要, 40, 118-121

(7) 聖路加・テルモ共同研究事業

聖路加市民アカデミー・新健康カレッジセミナー

1. 役割

テルモ株式会社からの寄付金をもとに、社会貢献事業として一般市民向けの健康支援セミナーとして「聖路加・テルモ共同研究事業 新健康カレッジ」を開催し、自分自身の身体を理解し主体的に健康を維持して自分らしくより良く生きることを目指して、市民に学びの場を提供している。

2. 活動内容

1) 聖路加市民アカデミー2013

〔開催日：2013年10月24日（木） 13：30－16：00〕

「自分らしく生きるための選択」をメインテーマとし、少子高齢社会が進む時代に、私たちが自分らしくよりよく生きるためにどのような選択や準備をしたらよいのか、バイオエシックスの提唱者である講師の先生方と共に、参加者と一緒に考えていく機会を提供した。

講演テーマと講師は、〔特別講演〕生き方上手：日野原重明氏（聖路加国際メディカルセンター理事長 聖路加看護学園理事長）、〔講演〕自分らしくよりよく生きること：木村利人先生（早稲田大学名誉教授）であった。講演後には、渋谷紀子氏、芦川侑美氏、高橋よしの氏による心癒される弦楽三重奏で幕を閉じた。会場には318名もの参加者が集まった。

2) 新健康カレッジセミナー2011

〔開催日：〔講座Ⅰ〕2013年9月7日、〔講座Ⅱ〕2013年11月9日、〔講座Ⅲ〕2013年1月11日 いずれも土曜日14：00－15：30〕

「知って学ぶ 自分のからだ」全3回シリーズで、〔講座Ⅰ〕なぜ脳出血が起こるの？－その予防と最新治療－：上村昭博先生（聖路加国際病院 神経血管内治療科医員）、〔講座Ⅱ〕なぜ骨粗鬆症になるの？－骨のしくみと骨粗鬆症－：菱沼典子先生（聖路加看護大学 基礎看護学教授）、〔講座Ⅲ〕なぜ高血圧は怖い？－狭心症と最新治療－：西祐太郎先生（聖路加国際病院 循環器内科医長）が開催された。参加者は、〔講座Ⅰ〕55名〔講座Ⅱ〕45名〔講座Ⅲ〕38名であった。

3. 課題

今年度で、聖路加・テルモ共同研究事業は終了する。しかし、市民のニーズが高い事業であるため、新たな体制における運営の継続を検討したい。

(8) 福島県災害支援プロジェクト

1. 役割・職務

NPO 法人日本臨床研究支援ユニット（理事長 大橋靖雄 東京大学教授）による「きぼうときずなプロジェクト」に賛同・協力する形で、本学は2011年4月から福島県災害支援プロジェクトを立ち上げ、東日本大震災被災地の中でも福島県に特化した支援を継続し、本学に縁のある看護師、保健師の派遣や行政保健師との共同研究等とおして、被災者の健康増進に寄与する活動を行った。

2. 活動内容（上記1に沿って記述）

今年度の主な活動は以下の4つである。

- 1) 富岡町保健師からの依頼に基づき、被災住民の生活活動度調査のための調査票案を作成、提供した。
- 2) 「東日本大震災後の福島県被災住民（いわき市）の健康調査（研究代表者：山田雅子、公益財団法人大和証券ヘルス財団平成24年度調査研究助成金による）」として、いわき市保健所が実施した健康調査データの分析を行った。
- 3) 富岡町の骨粗鬆症・子宮頸がん検診に参加する女性を対象としたロコモティブシンドロームに関する説明と、ビデオを併用した体操指導講座を2013年12月17日に開催した。本学の認定看護師教育課程訪問看護コースの受講生23名が講師および健康相談員として活躍した。
- 4) 富岡町おたがいさまセンター主導による料理もてなし隊・健康もてなし隊プロジェクトへの健康相談員を派遣した。本活動は2014年2月～3月に4回開催され、福島県在住の認定看護師教育課程訪問看護コース受講生1名と本学教員または、るかなび専門職ボランティア1名がペアとなり、各回2名が健康相談員として参加した。詳細については表1参照。

3. 課題

NPO 法人による「きぼうときずなプロジェクト」活動も4年目に入り、被災地や被災者の変化に伴い支援

活動の内容・形態も変化していくことが予想され、本学による活動協力体制も柔軟に対応することが求められる。

4. 資料・データ

表1 「きぼうときずな」料理もてなし隊・健康もてなし隊活動の詳細

日程	開催場所	対象者 (各回 20-30 人予定)	備考
2014. 2. 18 (火)	おたがいさまセンター	・郡山富田仮設住民 ・元気でなんでもできる人	・シェフ指導による料理教室と食事会と健康相談
2014. 2. 27 (木)	川内村集会所	・郡山南一丁目仮設住民 ・元気でなんでもできる人	同上
2014. 3. 4 (火)	おたがいさまセンター	・郡山緑ヶ丘仮設住民 ・元気でなんでもできる人	・シェフ指導による料理教室と食事会 ・健康相談 ・郡山市役所のバスで、緑ヶ丘仮設と富田仮設の間を送迎
2014. 3. 18 (火)	おたがいさまセンター	・郡山富田仮設住民 ・おたがいさまセンターに来たことがない人	・料理は前3回の参加者が担当 ・健康相談